

# 元総社北小学校遺跡

元総社北小学校プール改築建築工事に伴う  
埋藏文化財発掘調査報告書

2021.1

前橋市教育委員会  
技研コンサル株式会社







# 元総社北小学校遺跡

元総社北小学校プール改築建築工事に伴う  
埋藏文化財発掘調査報告書

2021.1

前橋市教育委員会  
技研コンサル株式会社



## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、統く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた肥橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社北小学校遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分僧寺・国分尼寺などを中心に連綿と遺跡が広がる地域であります。この地域は、公共事業に伴い数多くの発掘調査実績があり、検出された遺構や遺物は、質、量ともに市内では隨一を誇ります。今回の調査は、元総社北小学校プール改築建築工事に伴い実施されました。調査の結果、弥生時代後期、古墳時代後期、飛鳥時代、平安時代の住居跡、中世以降では道路状遺構などが検出されました。残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和3年1月

前橋市教育委員会  
教育長　吉川　真由美

## 例　　言

- 1 本報告書は元総社北小学校プール改築建築工事に伴う「元総社北小学校遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名　　元総社北小学校遺跡（前橋市0118遺跡）（前橋市遺跡コード：2A 260）

遺跡所在地　群馬県前橋市総社町3149

監理指導　小峰 篤（前橋市教育委員会）

調査担当　中村岳彦（技研コンサル株式会社）

調査員　松村春樹（技研コンサル株式会社）

発掘調査期間　令和2年10月1日～令和2年12月2日

整理事業期間　令和2年11月24日～令和3年1月29日

調査面積　208 m<sup>2</sup>

- 3 発掘調査参加者及び整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子（技研コンサル株式会社） 芦川良紀 安藤三枝子 伊丹茂一 稲敷美枝子 宇賀美代子

大塚とし子 笠原たく江 加藤知恵子 鶴田栄作 莊田武明 小池初美 小林克宏 設楽和男 杉田友香

須田勝美 田代京子 田代光男 立川千栄子 田所順子 土屋和美 永井憲一 中嶋知恵子 細野竹美

水野さかゑ 村田稔男 矢島正志

- 4 本書の編集は松村が行い、原稿執筆はIを小峰 篤（前橋市教育委員会）、他を松村が担当した。

- 5 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

- 6 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

元総社北小学校、元総社中学校、前橋市教育施設課、山下工業株式会社

## 凡　　例

- 1 押団中に使用した北は座標北である。
- 2 押団に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『渋川』、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、住居跡：H、道路跡：A、溝跡：W、井戸：I、土坑：D、ピット：Pである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 住居跡・溝跡・土坑・ピット・道路状遺構・その他・・・1/60 カマド・・・1/30

全体図・・・1/150

遺物 土器・石製品・瓦・・・1/3、1/4、1/6 金属製品・・・1/2

- 5 本文及び表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

- 6 遺構断面のトーン表現は以下の通りである。

遺構 焼土範囲：■ 粘土範囲：■■■ 灰範囲：■■ 硬化面範囲：■■■ 地山：■■■■

遺物 須恵器（還元焰）断面：■■■ 須恵器（酸化焰）断面：■■■ 灰釉陶器断面：■■■■

灰釉施釉範囲：■■■ 研磨範囲：■■■

- 7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間B軽石：1108）、H r-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）

H r-FA（榛名ニッ岳渋川テフラ：5世紀末～6世紀初頭）、As-C（浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

# 目 次

はじめに

例言・凡例

|               |    |
|---------------|----|
| I 調査に至る経緯     | 1  |
| II 遺跡の位置と環境   | 1  |
| III 調査の方針と経過  | 5  |
| IV 基本層序       | 7  |
| V 造構と遺物       |    |
| 1. 壁穴住居跡      | 7  |
| 2. 道路状造構      | 12 |
| 3. 溝          | 12 |
| 4. 井戸、土坑、ビット  | 12 |
| VI 発掘調査の成果と課題 | 26 |

## 挿図目次

|                         |    |                                     |    |
|-------------------------|----|-------------------------------------|----|
| Fig. 1 道路の位置            | 1  | Fig.10 H-13・14号住居跡                  | 18 |
| Fig. 2 周辺遺跡図            | 3  | Fig.11 H-14・15・19号住居跡               | 19 |
| Fig. 3 周辺調査地図とグリッド設定図   | 4  | Fig.12 H-16・20号住居跡                  | 20 |
| Fig. 4 全体図・基本層序         | 6  | Fig.13 H-21・22号住居跡、A-1号道路状造構        |    |
| Fig. 5 H-1・3号住居跡        | 13 | W-1・2号溝跡                            | 21 |
| Fig. 6 H-4・6号住居跡        | 14 | Fig.14 I-1号井戸、D-2・5・7・9-13号土坑       | 22 |
| Fig. 7 H-6・7号住居跡        | 15 | Fig.15 H-3~8・13出土遺物                 | 23 |
| Fig. 8 H-8~12・17・18号住居跡 | 16 | Fig.16 H-12・14・15・18-21、D-2、造構外出土遺物 | 24 |
| Fig. 9 H-13号住居跡         | 17 | Fig.17 元絶杜北小学校 住居跡変遷図               | 27 |

## 表目次

|                     |    |                         |    |
|---------------------|----|-------------------------|----|
| Tab. 1 周辺道路一覧表      | 3  | Tab. 3 元絶杜北小学校遺跡出土遺物観察表 | 25 |
| Tab. 2 井戸、土坑、ビット計測表 | 22 | Tab. 4 周辺道路時期別住居跡枚数表    | 28 |

## 写真図版目次

|   |   |
|---|---|
| PL. 1 調査区全景（上が北）<br>調査区全景（北東から）   | PL. 4 H-13号住居跡カマド全景（南西から）<br>H-14号住居跡全景（西から）  |
| PL. 2 H-1号住居跡全景（西から）<br>H-2号住居跡全景（南西から）<br>H-3号住居跡全景（西から）<br>H-4号住居跡全景（西から）<br>H-4号住居跡カマド全景（西から）<br>H-5号住居跡全景（南西から）<br>H-6号住居跡全景（西から）<br>H-6号住居跡カマド全景（西から）        | PL. 5 H-15号住居跡全景（南西から）<br>H-16号住居跡全景（南西から）<br>H-17号住居跡全景（南西から）<br>H-18号住居跡全景（南から）<br>H-19号住居跡全景（西から）<br>PL. 6 H-20号住居跡全景（北西から）<br>H-21号住居跡全景（北西から）<br>H-22号住居跡全景（南西から）<br>B区作業風景（北東から）<br>遺跡説明会の様子（北から）<br>PL. 7 遺物写真 |
| PL. 3 H-7号住居跡全景（南西から）<br>H-7号住居跡カマド全景（北西から）<br>H-8号住居跡全景（西から）<br>H-9号住居跡カマド全景（西から）<br>H-10号住居跡全景（北西から）<br>H-11号住居跡全景（南から）<br>H-12号住居跡全景（北東から）<br>H-13号住居跡全景（南西から） |   |

引用・参考文献

論文等

前橋市史編さん委員会 1971 『前橋市史1』

免掘調査報告書

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『鶴社閑泉明神北Ⅳ道路元鶴社牛池川道路元鶴社北川道路元鶴社小見内V道路』

近藤義雄 『天狗岩用水の研究』 群馬郡社小学校 (出版年不明)

郡九十九一 1947 『天狗岩堰開鑿史－江戸初期水利開発の一例－』 群馬國語文化研究所

前橋市教育委員会 2012 『鶴社鶴荷塚大道西 Ng2 道路』

前橋市教育委員会 2016 『元鶴社中学校道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999 『鶴社閑泉明神北道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見内Ⅲ道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001 『元鶴社蒼海道路群鶴社甲種荷塚大道西Ⅰ・Ⅱ道路』 鶴社閑泉明神北Ⅱ道路

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 『元鶴社蒼海道路群鶴社甲種荷塚大道西Ⅲ道路鶴社閑泉明神北Ⅲ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見内Ⅳ道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見V 道路元鶴社小見内 VI 道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見内Ⅳ道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見内Ⅴ道路鶴社甲種荷塚大道西Ⅳ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見内Ⅵ道路鶴社閑泉明神北Ⅴ道路』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 『元鶴社蒼海道路群 元鶴社小見内Ⅶ道路』

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市長 山本 龍（教育施設課）（以下「前橋市」という。）が施工する元総社北小学校プール改築建築工事に伴い実施されたものである。

当該工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（前橋市0118遺跡）であることから、試掘確認調査（以下「試掘調査」という。）を令和2年8月19～20日に実施した。試掘調査の結果、古代の堅穴住居跡が検出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて前橋市と協議を行なった。プール建築計画と試掘調査結果を基に埋蔵文化財保護措置について協議したところ、配管部分や管理施設建物基礎部分（以下「配管部分等」という。）については掘削が深くまで及ぶことから遺跡の現状保存は困難であると判断した。それ以外のプール本体部分については、遺跡の保護層が確保できるため現状保存とした。のことから、配管部分等に限定し、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで前橋市と合意した。

同年9月1日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委直営による発掘調査実施は、既に他の発掘調査予定があるため困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年10月1日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社北小学校遺跡」（遺跡略コード：2A 260）は学校名を採用した。



Fig.1 遺跡の位置

## II 遺跡の位置と環境

### 1. 地理的環境 (Fig. 1・2)

元総社北小学校遺跡は前橋市の南西部に位置する。本遺跡から東へ25kmには群馬県庁が、南へ2.2kmには前橋インターチェンジが所在し、東には元総社中学校が隣接する。遺跡地は田園地帯として利用されていたが、近年では西毛広域幹線沿いに商業施設が次々と新設され、その様相が刻々と変化している。

遺跡地は、前橋台地と榛名山南東麓の相馬ヶ原扇状地の移行地帯にあたり、牛池川の浸食作用によって形成された低地平野と台地の崖線近くに立地する。東へ2kmには現利根川が南流する。前橋台地は約2万年前に浅間山の山体崩落により生じた前橋泥流を母体とする。この頃の元利根川は総社や元総社の辺りを流れていると考えられている。相馬ヶ原扇状地は約1.7万年前に榛名山の山体崩落により生じた陣場岩屑なだれにより形成された。前橋泥流により埋められた前橋台地原面では一時的に排水系が消失し、湿地帯があらわれた。前橋泥炭層はこのような湿地性の環境に堆積が行われた。元利根川が残した低地は相馬ヶ原扇状地を水源とする染谷川・牛池川・八幡川などの流れに影響を与えた。これらの中小河川は榛名山の裾野を南東へ流れるが、元利根川が残した

低地の影響を受け、遺跡地周辺で流れを大きく南へ変える。急激な流れの変化は洪水の温床となり、度重なる洪水の堆積により遺跡地の周辺には總社砂層が形成された。總社砂層の堆積と中小河川による開拓の反復は、微高地と低地を残しつつ台地を形成した。台地が安定すると、中小河川の流れも現在の場所に落ち着き、今日まで下刻を続いている。その後、台地上にはクロボク土が形成され、歴史時代に起きた度重なる火山災害や人為的な地形改变の累積を経て、台地表層は次第に平坦化してきたと推測できる。

## 2. 歴史的環境 (Fig. 2・3, Tab. 1)

本遺跡周辺にて確認される最古の遺構は現在のところ、縄文時代前期に遡る。該期の住居跡は、蒼海遺跡群（3・4・40・41・94 街区※以下「蒼海」）などで確認され、染谷川左岸の自然堤防に沿って帶状に分布する。中期の住居跡は、蒼海（3・40・116・123）・小見内Ⅶ遺跡などに確認される。後期～晩期の遺構は少ないが、蒼海（10・101）に確認される。本遺跡では、土器片や黒曜石の石器（遺構外-1）が出土した。

弥生時代の遺構は少ないが、前期末～後期の遺物は、蒼海（37・39・61）・小見内Ⅲ遺跡などで出土しており、現状の分布は牛池川右岸の一帯に集中する。本遺跡でも樽式期の住居跡を調査した。

古墳時代前期の遺構は前代の分布を踏襲する。他方で牛池川左岸では集落域のほか、蒼海（128）で畠跡、低地平野内の南泉明神北IV・V道跡などで水田跡が確認され、蒼海（62・81・100）などには周溝墓が推定されており、集落域・生產域・墓域を含む一體的な生活の単位が確認される。中期になると牛池川の一帯では左岸を中心とした遺構が分布し、蒼海（35・81・91）などで多くの住居跡が確認される。元總社北川遺跡など、低地内にはHr-FA 洪水層に覆われた小区画水田跡が確認され、この頃までは、牛池川低地平野の広い範囲が開発されたと推測できる。後期になるとほぼ全域で住居跡が確認される。約600m 東には、6世紀後半頃の築造と推定される福荷山古墳 [43] が位置し、7世紀には約1.5km 北東に總社古墳群や、700m 北に山王庵寺〔ホ〕が建立されて、政治的中枢を形成する。本遺跡周辺では蒼海（7・9・10・35）で、大規模な掘立柱建物跡群と区画溝、飛鳥IIの畿内産暗文坏が出土しており、遺構の主軸方向は、山王庵寺下層の大規模掘立柱建物跡群に近似する。7世紀の住居跡は広く分布するが、前代に比べると減少する。本遺跡でも該期の住居跡を調査した。

奈良時代、本遺跡の周辺は上野国府の推定域にあたり、国府の位置にはA～Dの4案が推定される。一方、この域内では8世紀後半から9世紀末葉まで、住居跡は確認されていない。また該期には直進性を指向する大規模な道路網も整備され、蒼海（14・30・141・17 街区）・国府6トレンチなどで確認された南北道路は、推定「日高道」（D）と山王庵寺西側に推定される「南北古道」（近藤 1981）を直線的に繋ぐ一連の道路の一部と予想される。国府域の特殊性は出土遺物にも反映され、暗文坏や、須恵器盤・高盤の出土率は他地域に比べて高く、30地点以上に出土例がある。本遺跡では該期の遺構・遺物は出土していない。

平安時代になると、中小規模の住居跡が無数に確認される。元總社中学校遺跡（58）からは、カマド構築材に転用された「方光」銘の丸瓦が出土した。上野国府域の空間構成は、近年では地点毎の特徴を示す遺物も増加し、検討の俎上にある。例えば、国府城の北西端で国分僧寺・尼寺にも近い、蒼海（26・40・41・116）、小見Ⅱ遺跡などでは、腰帶具・円面鏡の出土率が高く、鉄鉢形土器・三足盤・金の付着した灰釉陶器・富壽神寶などの特徴的な遺物や、墨書き土器が出土している。国府域の西端にあたる染谷川左岸自然堤防上の蒼海（8・13）では綠釉陶器の出土率が特に高い。国府城の北東端にあたる牛池川右岸の蒼海（37・39・53）などでは、馬具・小札・刀装具・鉄鎧などの出土が目立つ。なお、国府に関連すると考えられる区画溝は、蒼海（2・9・36・58）、闇泉橋遺跡などで確認されている。上野国府がいつまで本来的な意味を有していたかは不明だが、平安時代後半期の国府域を特徴づける遺物も地點的に確認できる。国府B案推定域の国府50トレンチでは「阿部私印」銅印が出土した。国府C案推定域の蒼海（99・127）では、多角柱状の長い棒状脚部をもつ白色の酸化焰焼成高坏が数点出土し、蒼海（127）で出土した「ての字状口縁」皿とともに、都城の器種組成との類似性が指摘される。蒼海（137）では八稜鏡を含む複数の鏡・鉄鋸・鉄鎧などが集中的に出土し、遺物の質において周囲と隔離している。

また、蒼海（75街区）では、小銅仏や銅印の鋳型・取瓶・金属箔などが鋳造工房から出土し、類似の小銅仏は蒼海（95）から出土している。本遺跡でも多数の住居跡や遺物が出土し、綠釉陶器片なども出土した。

国府域は、蒼海城〔i〕により大規模に地形改変されている。国府推定域内の、蒼海（23・29・65・122・124・126）などでは蒼海城中枢部の堀跡群が、蒼海（21）では、二の丸の柱穴群が確認され、帰属時期は15世紀を中心とする。関連遺物は、蒼海（23・25）で12～15世紀の貿易陶磁が多数出土している。

慶長6年（1601年）、秋元長朝が総社領主になると蒼海城は廃城し、総社城〔ii〕が築城された。長朝は領内に天狗岩用水〔a〕を開削した。天狗岩用水の水路網は、五千石堰用水〔b〕や小笠原堰用水〔c〕により補われるが、これらは相馬ヶ原扇状地を水源とする午王頭川や八幡川の中河川から取水し、一方で利根川から取水する天狗岩用水とは異なる灌漑系統をもつ。その開削時期は天狗岩用水を遡る可能性があり、上野国神名帳に残る「小笠原溝口明神」の記載は、小笠原堰用水を指すとの指摘もある（都丸1947、近藤〔出版年不詳〕）。また、甲種荷塚大道西遺跡A区や、西部第一落合遺跡群（1）〔45〕では、これらの用水路と同一方向に流下する、As-B降下以前に埋没した大規模な溝跡が確認されている。



Fig. 2 周辺遺跡図 (S = 1/25,000)

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

| 遺跡名                                 | 番号 | 遺跡名             | 番号 | 遺跡名            | 番号  | 遺跡名            |
|-------------------------------------|----|-----------------|----|----------------|-----|----------------|
| 1 元総社北小学校遺跡                         | 21 | 坂田村東北道跡         | 41 | 南委道路東道跡        | ハ   | 宝塔山古墳          |
| 2 保垂・星戸北遺跡                          | 22 | 坂井御跡跡           | 42 | 福荷塚東道跡         | ニ   | 蛇穴山古墳          |
| 3 舞戸Ⅱ遺跡                             | 23 | 坂田村東Ⅱ・相白台北道跡    | 43 | 福荷山古墳          | ホ   | 山王座寺跡          |
| 4 舞戸遺跡                              | 24 | 坂荷台南道跡          | 44 | 元総社福荷跡         | ア   | 上野国伊那原定地（A-D案） |
| 5 大友附敷Ⅱ・大友附敷Ⅲ遺跡                     | 25 | 坂荷台・北金尾道跡       | 45 | 内部第一落合遺跡群（1）   | ビ   | 上野国分僧寺         |
| 6 元総社明神遺跡I～XIII                     | 26 | 坂荷台東金尾道跡        | 46 | 御前町            | シ   | 上野国分寺寺         |
| 7 元総社寺道跡I～III                       | 27 | 羽鳥道跡            | 47 | 御前町            | ド   | 日高通都定地         |
| 8 守田道跡                              | 28 | 中尾道跡            | 48 | 御前町            | エ   | 東山道野野路国府ルート推定地 |
| 元総社小学校遺跡・国府20・21・30・41・42・43・51トレンチ | 29 | 上野国分寺・尼寺中間地域    | 49 | 国府24a・bトレンチ    | i   | 蒼海城跡           |
| 10 天神・天神Ⅱ道跡                         | 30 | 上野国分寺二中間地域道跡    | 50 | 国府25トレンチ       | ii  | 総社城跡           |
| 11 赤堀・弥勒巨石跡                         | 31 | 西国分寺御廻り道跡       | 51 | 国府26・46トレンチ    | iii | 金尾城跡           |
| 12 元総社西川道跡                          | 32 | 国分殿遺跡           | 52 | 国府23トレンチ       | a   | 天狗岩用水          |
| 13 上野国分寺参道遺跡                        | 33 | 西国分寺道跡          | 53 | 国府31・32トレンチ    | b   | 五千石堰用水         |
| 14 元総社西川・坂田中原遺跡                     | 34 | 国分殿跡            | 54 | 国府54トレンチ       | c   | 小笠原堰用水         |
| 15 榊田中原道跡                           | 35 | 北原・町堀里道跡        | 55 | 国府15・16トレンチ    |     |                |
| 16 坂田村東道跡                           | 36 | 北原道跡            | 56 | 国府43・44トレンチ    |     |                |
| 17 国松堂遺跡跡区                          | 37 | 村東道跡            | 57 | 国府17～19・22トレンチ |     |                |
| 18 榊田中原道跡                           | 38 | 大屋道跡I～N         | 58 | 元総社中学校道跡       |     |                |
| 19 榊田中原道跡O区                         | 39 | 昌葉寺跡向・昌葉寺跡向II道跡 | イ  | 達見山古墳          |     |                |
| 20 坂田村東N道跡                          | 40 | 童委道跡東道跡         | ロ  | 愛宕山古墳          |     |                |

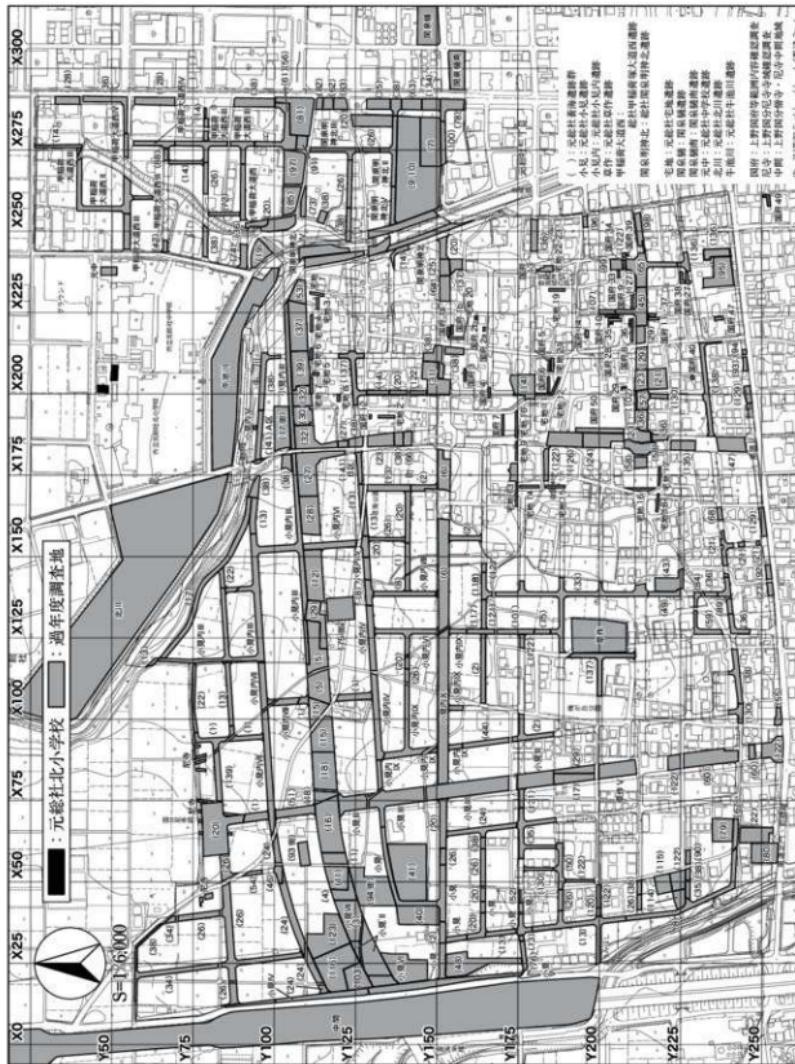


Fig. 3 周辺調査地点とグリッド設定図

### III 調査の方針と経過

#### 1. 調査範囲と基本方針

今回の発掘調査は、前橋市教育委員会が実施した試掘調査の結果に基づき、開発に伴い現状保存が不可能な部分を当該箇所として調査をした。調査面積は 208 m<sup>2</sup>である。調査面は 1 面で、古代の集落跡を主な調査対象とした。グリッド座標については、国家座標（日本測地系第 IX 系）X = 44000.000, Y = - 72200.000 を基点とする 4 m ピッチのものを使用し、経線を X、緯線を Y として北西隅を基点に番号を付与した。調査区の公共座標は次の通りである。

| 測点          | 日本測地系（第 IX 系）                      | 世界測地系（第 IX 系）                        |
|-------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| X 200, Y 50 | X = 43800.000 m, Y = - 71400.000 m | X = 44154.8980 m, Y = - 71691.7582 m |

発掘調査は 0.45 m<sup>2</sup>級バックホウを 1 台使用して調査区の南東側より表土掘削を開始した。現況表土が盛土の為、安全対策として深さ 1 m の掘削につき幅 50cm の段をついた。以下は入力による鉛筆を用いて遺構を検出し、遺構の掘り下げ・精査には移植コテを用いた。南東の調査区を A 区、北西の調査区を B 区と呼称し、遺構番号は調査区にかかわらず連番で付与した。住居に伴う遺構については、「P 1」などと “-” 無しの表記とした（単独の場合は「P - 1」と “-”を入れた）。

調査遺構の記録については、測量の平面図はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図は一部オルソフォトを併用して図化している。写真記録は 35mm フィルムカメラ（モノクロ・リバーサル）とデジタルカメラの 3 種類を使用した。調査区全景撮影についてはドローンにて実施した。

報告書の作成に際しては、DTP の手法を用いた。遺構図については、原図の作図から報告書掲載の編集図に至るまで一貫してデジタルデータを用い、遺物図については、断面形の計測と外面調整の描画にキーエンス社製 3D スキャナー（VL-300）を多用し、デジタルトレースを行った。遺物写真の撮影にはデジタルカメラを用いた。データ化されたこれら一切の調査記録を、レイアウトソフトを用いて組版し、刊行した。

#### 2. 調査経過

令和 2 年 10 月 1 日～2 日より調査に先んじて、周辺安全対策と調査区の設定を行う。調査区は前橋市教育施設課により計測・設定された。10 月 5 日～8 日にかけ重機を用いて、A 区から B 区へと表土の除去を行った。旧プール建設前の耕作土直下にあたる現地表下約 1.5 ~ 2.0 m で、住居跡のカマド等を確認することができたため、この面を遺構確認面とした。層位としては、As-C 混入黒色土層～クロボク土に相当すると判断できる。表土除去に並行して、10 月 7 日から A 区の遺構調査を開始したが、激しい重複のため遺構プランの平面的な把握は困難であった。そのため、カマドが確認できた最終段階の住居跡群を調査後、任意のトレントを複数削除し、遺構底面の把握と断面観察を補足的に行うことによって、各遺構の重複関係と範囲を推定し、隨時遺構調査を開始した。想定よりも遺構が多い為、10 月 12 日より作業員を増員した。また遺構掘削時に湧水が危惧されていたが、農閑期のため井戸を除いて湧水しなかった。10 月 20 日には同様の手法で B 区の調査を開始した。10 月 29 日に、元総社北小学校の全学年と元総社中学校の有志の生徒を対象に、遺跡の見学会を行った。約 400 名が来探し、発掘中の住居跡や出土遺物を見学していただいた。11 月 18 日には全ての遺構を完掘して、調査完了の確認が行われた。11 月 19 日には、調査区の全景写真撮影を行った。11 月 20 日～25 日にかけて、調査機材等の撤収作業を行い、11 月 26 日～27 日に 0.45 m<sup>2</sup>級バックホウを用いて埋め戻しを行った。12 月 1 日～2 日に周辺安全対策とプレハブの撤去を行い、現地における調査を終了した。例年では北風が厳しく吹き、調査は寒さとの戦いにもなるが、今年は陽気に恵まれ穏やかな気候の中で調査を行えた。

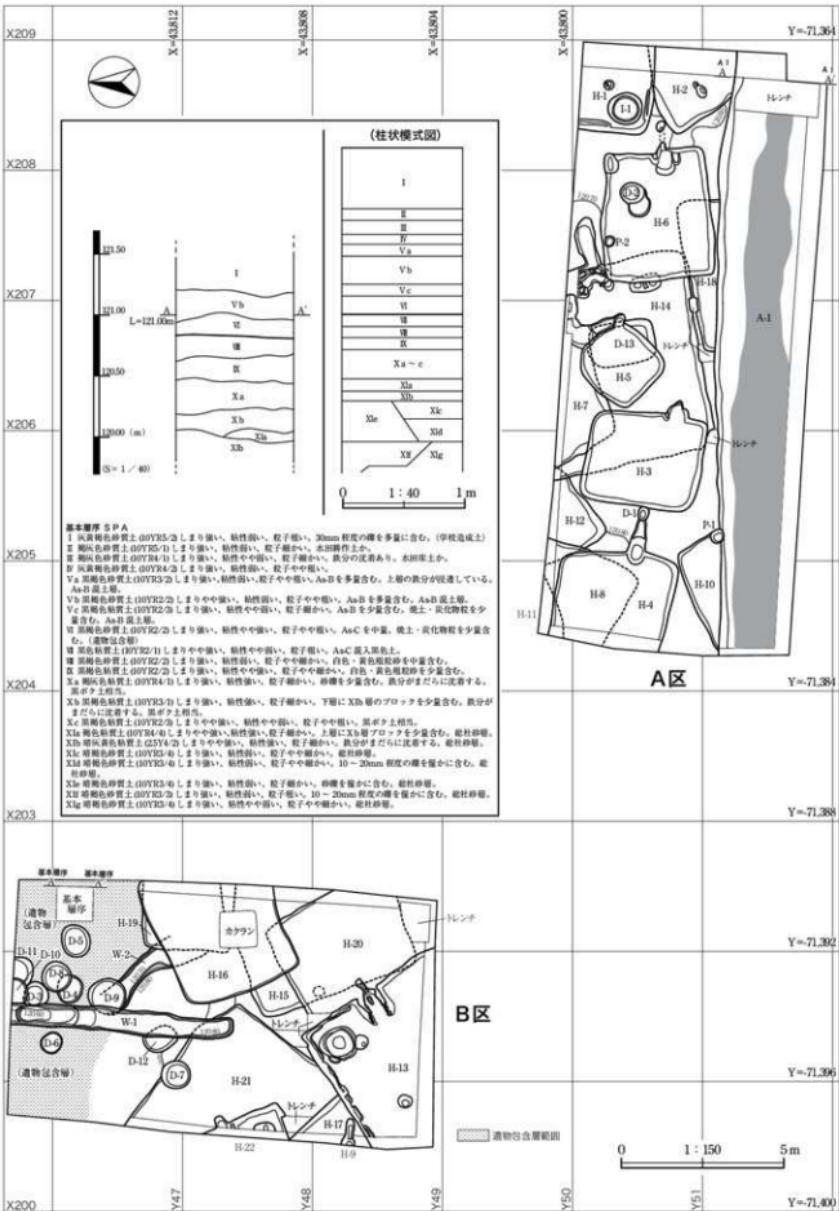


Fig. 4 全体図・基本層序

## IV 基本層序

調査区全域はプール造成時に盛土されており（I層）、一部分にはプール施設の基礎も残存しているが、遺構確認面では遺存状態が非常に良い。学校プール造成以前の耕作土に由来するII～IVの下位に堆積するVa～c層はAs-B混土層である。As-B軽石の一次堆積層は確認できないが、V層の堆積が非常に厚く、そのため遺存状態が良好である。VI層は遺物包含層で、堆積はB区の北側で確認できた。地点によってはVI層とVII層の間にAs-C混入黒色土、いわゆる「C黒」が確認できた（VII層）。Xa～c層はクロボク土に相当するが、湿性を帶び粘質化している。XIa～f層は総社砂層に相当する。ほぼ全域で粘質化しているが、一部粗い砂質の層も存在する。調査区の北西から南東にかけてXI層中に遺跡形成以前の自然流路が埋没しており、その流水による影響と推測できる。なお、遺構確認面はVI層の直下とした。

## V 遺構と遺物

### 1. 積穴住居跡

#### H-1号住居跡 (Fig. 5, PL. 2)

位置 A区 X 208, Y 50 主軸方向 (E - 8° - S) 規模 東西軸 (2.03) m・南北軸 (2.08) m・深さ 0.4 m。竪穴南西部のみ調査。面積 (4.33) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。床面 I-1の周辺を除き、全体的に硬化面を確認。重複 H-2, I-1と重複。新旧関係は本遺構→H-2→I-1。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 P1は竪穴南西の主柱穴と判断した。深さ 0.09 m・長軸 0.32 m。壁周溝 西側と南側の壁際に確認できる。

掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から灰釉陶器碗・壺、須恵器羽釜、土師器壺（武藏型壺）の破片などが出土。時期 覆土出土遺物の組成と重複関係から9～10世紀と推定。

#### H-2号住居跡 (Fig. 5, PL. 2)

位置 A区 X 208, Y 50・51 主軸方向 (E - 33° - N) 規模 東西軸 (2.14) m・南北軸 (2.84) m・深さ 0.31 m。竪穴西角部分のみ調査。面積 (3.28) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。床面 P1の周辺を除き、全体的に硬化面を確認。重複 H-1, A-1と重複。新旧関係は本遺構→H-1→A-1。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 P1は竪穴北西の主柱穴と判断した。深さ 0.28 m・長軸 0.58 m。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から灰釉陶器碗、須恵器羽釜、須恵器壺（酸化焰焼成）の破片などが出土。時期 覆土出土遺物の組成と重複関係から10～11世紀と推定。

#### H-3号住居跡 (Fig. 5, PL. 2)

位置 A区 X 205・206, Y 50・51 主軸方向 E - 8° - S 規模 東西軸 2.65 m・南北軸 3.57 m・深さ 0.3 m。面積 10.24 m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。床面 カマド前から西側に硬化面を確認。重複 H-7・14, D-1と重複。新旧関係はH-14→本遺構→H-7→D-1。カマド 東壁に確認。中央からやや南に位置する。全長 0.94 m・燃焼室内幅 0.41 m・煙道内幅不明。遺存状態は良く、右袖に構築材と判断できる石材を確認。支脚は確認できず。燃焼室は全体的に被熱し硬い。焚口部から燃焼室中央にかけて火床面と灰層が確認できる。煙道は非常に短い。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 カマド内から光ヶ丘1号窯式期の灰釉陶器碗（1）、床面直上から黒筆90号窯式期の灰釉陶器皿（2）などが出土。時期 カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から10世紀前半と推定。

#### H-4号住居跡 (Fig. 6, PL. 2)

位置 A区。X 204・205、Y 49・50 主軸方向 E - 9° - S 規模 東西軸 (2.65) m・南北軸 3.57 m・深さ 0.35 m。竪穴東隅 2/3 部分を調査。面積 (9.20) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 カマドの手前から西側に硬化面がまだらに確認できる。重複 H - 8・11・12、D - 1 と重複。新旧関係は H - 11・12 → H - 8 → 本遺構 → D - 1。カマド 東壁の南寄りに確認。全長 (1.54) m・燃焼室内幅 0.46 m・煙道内幅 0.22 m。支脚は確認できず。燃焼室は全体的に被熱し硬い。焚口部に火床面と灰層が確認できる。煙道は長く底面は平坦。煙出し部には D - 1 が重複しており詳細は不明。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 カマド内から須恵器塊や土師器土釜 (1・2) などが出土。1 の塊は、酸化焰焼成で大形。

時期 カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から 11 世紀と推定。

#### H-5号住居跡 (Fig. 6, PL. 2)

位置 A区。X 206、Y 50 主軸方向 E - 11° - S 規模 東西軸 2.16 m・南北軸 1.96 m・深さ 0.25 m。面積 4.53 m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む暗褐色土を基調とする。上層は As-C を多く含み、下層から床面直上にかけて被熱した粘土塊を多く含む。床面 確認できず。重複 H - 7・14 と重複。新旧関係は H - 14 → 本遺構 → H - 7。カマド 竪穴東隅の被熱部を隅カマドと判断したが、重複が激しく判然としない。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 1 の縁釉陶器と 3 の土製品は、重複する D - 13 に伴う可能性がある。3 の土製品は、竈形土製品の可能性がある。焼成は甘いが表面に平滑な調整面があり、同一個体と判断できる小片が D - 13 からも多数出土した。2 の須恵器横瓶は、重複する H - 14 に伴う可能性がある。時期 重複関係から 10 世紀と推定。備考 形状等要則的で、竪穴住居跡ではない可能性もある。下位に重複する H - 14 の調査段階で確認した D - 13 の直上に位置しており、遺物の帰属時期も近く、H - 5 と D - 13 は、一連の焼成土坑の可能性がある。

#### H-6号住居跡 (Fig. 6・7, PL. 2)

位置 A区。X 207・208、Y 50・51 主軸方向 E - 8° - N 規模 東西軸 3.92 m・南北軸 3.42 m・深さ 0.35 m。面積 13.41 m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む暗褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 カマド手前から竪穴中央にかけて硬化面が広がる。重複 H - 14・18、D - 2、P - 2 と重複。新旧関係は H - 18 → H - 14 → 本遺構 → D - 2・P - 2。カマド 東壁の南寄りに確認。全長 1.65 m・燃焼室内幅 0.48 m・煙道内幅 0.14 m。燃焼室は全体的に被熱し硬い。支脚は確認できず。燃焼室と煙道の境は不明瞭で、煙道は長く底面は平坦。火床面は確認できず。焚口部に灰層を確認。右袖部よりほぼ完形の小型甕が出土した。底部の破片が南 0.5 m の位置より出土した。煙道部の天井は崩落していない。貯蔵穴 確認できず。ピット 北東隅の P 1 は深さ 0.27 m・長軸 0.6 m。東西に長い楕円形。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 床面直上から須恵器蓋 (1)、カマド内からの土師器壺と小型甕 (2・3) などが出土。時期 カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から 7 世紀後半と推定。

#### H-7号住居跡 (Fig. 7, PL. 3)

位置 A区。X 205～207、Y 49・50 主軸方向 S - 24° - E 規模 東西軸 (3.71) m・南北軸 (1.91) m・深さ 0.4 m。竪穴西部 1/5 部分を調査。面積 (4.38) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。東壁際の最下層には、図示した大型の岩塊が混入する。床面 カマド手前から全体的に硬化面を確認。重複 H - 3・5・14 と重複。新旧関係は H - 14 → H - 3・5 → 本遺構。カマド 造り替えており、新旧 2 基確認した。旧カマドは東角に確認。いわゆる隅カマド。新カマドは南東壁の東角付近で確認。新カマドは全長 (1.76) m・燃焼室内幅 0.55 m・煙道内幅 0.23 m。燃焼室は被熱し全体的に硬い。左右の袖石を確認した。燃焼室と煙道の境、ほぼ中央に支脚を確認した。燃焼室と煙道の境は

有段。煙道は長く底面は平坦。焚口部に火床面と灰層を確認。H-6と同様に煙道部の天井は崩落していない。旧カマドは全長 0.78 m・燃焼室内幅 0.28 m・煙道内幅不明。旧カマドは半分以上が調査区外のため、十分に観察できず構造は不明だが、焚口部に灰層を確認した。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 カマド内から須恵器小皿や土師器土釜（1・2）などが出土。1の小皿は酸化焰焼成。時期 カマド内の遺物と重複関係から11世紀と推定。

#### H-8号住居跡 (Fig. 8, PL. 3)

位置 A区。X 204・205、Y 49・50 主軸方向 (E - 20° - S) 規模 東西軸 (1.84) m・南北軸 (2.83) m・深さ 0.41 m。竪穴西角部約 1/4 部分を調査。面積 (5.36) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 硬化面は確認できず。南西壁に長軸 1.2 m、円形の緩やかなくぼみを確認。重複 H-4・11・12 と重複。新旧関係は H-11・12 → 本遺構 → H-4。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 床面直上から黒色土器壺や平瓦（1・2）などが出土。時期 カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から9世紀と推定。

#### H-9号住居跡 (Fig. 8, PL. 3)

位置 B区。X 200、Y 48 主軸方向 E - 6° - S 規模 カマドのみ検出のため不明。面積 (0.22) m<sup>2</sup> 覆土 焼土・炭化物を多く含む。床面 確認できず。重複 H-13・17 と重複。新旧関係は H-17 → H-13 → 本遺構。カマド 竪穴部は調査区外のため確認できないが、東壁に位置すると推定できる。全長 (0.83) m・燃焼室内幅 0.4 m・煙道内幅 0.24 m。燃焼室は被熱し、やや硬い。支脚は確認できず。燃焼室と煙道の境は有段。煙道は長く底面は平坦。火床面と灰層は確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 カマド内から土師器壺・壺の破片が少量出土。時期 覆土出土遺物の組成と重複関係から9～10世紀と推定。

#### H-10号住居跡 (Fig. 8, PL. 3)

位置 A区。X 204・205、Y 50・51 主軸方向 (E - 22° - N) 規模 東西軸 (3.14) m・南北軸 (1.59) m・深さ 0.3 m。面積 (3.57) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 東半部のはば全域に硬化面を確認。重複 A-1、P-1 と重複。新旧関係は本遺構 → A-1・P-1。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から灰釉陶器碗、須恵器羽釜などが出土。時期 覆土出土遺物の組成から10～11世紀と推定。

#### H-11号住居跡 (Fig. 8, PL. 3)

位置 A区。X 204、Y 49 主軸方向 (E - 20° - N) 規模 東西軸 (1.03) m・南北軸不明・深さ (0.7) m。竪穴の南壁のごく一部分のみ調査。面積 (0.20) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。床面 硬化面は確認できず。重複 H-8 と重複。新旧関係は本遺構 → H-8。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から土師器壺の破片が少量出土。時期 重複関係から5世紀と判断。

#### H-12号住居跡 (Fig. 8, PL. 3)

位置 A区。X 205、Y 49・50 主軸方向 (E - 40° - N) 規模 東西軸 (1.88) m・南北軸 (2.25) m・深さ 0.6 m。面積 (2.36) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 硬化面は確認できず。重複 H-4・8・12・14 と重複。新旧関係は本遺構 → H-14 → H-8 → H-4 カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 床面直上から須恵器大壺の胴部片（1）が出土。時期 床面直上出土の遺

物と重複関係から5世紀後半と推定。

#### H-13号住居跡 (Fig. 9・10, PL. 3)

位置 B区。X 200～202、Y 47・48 主軸方向 E-32°-N 規模 東西軸(3.69)m・南北軸(4.66)m・深さ0.55m。北側1/2部分を調査。面積 (14.39)m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く、Hr-FAブロックを少量含む。中層はHr-FAブロックを多く含み、遺物の包含が少ない。中層は人為的な埋め戻し土と判断した。床面 壁際や付属施設の周辺を除き全体的に硬化面を確認。重複 H-9・15・17・20・21と重複。新旧関係はH-21→H-20→H-15・17→本造構→H-9。カマド 北東壁のほぼ中央に確認。全長1.61m・燃焼室内幅0.43m・煙道内幅0.15m。燃焼室は強く被熱し硬い。右袖前方のくぼみは袖石などの構築材跡と判断した。支脚は確認できず。燃焼室と煙道の境は有段。煙道は短く底面は平坦。燃焼室やや右よりに火床面を確認。焚口部から燃焼室にかけて灰層を確認。調査当初は、北側に旧カマドの煙道部が残存するものと判断し調査したが、重複するH-15・20の調査段階で再度平面プランを観察したところ、竪穴壁面を大型長方形の土坑状に掘り込んだカマド掘り方の一部であることが判明した。掘り方は掘削後に壁際を埋め戻したのち、強く被熱して赤化しており、カマド構築の中途段階で行われた「空炊き」の痕跡の可能性がある。貯蔵穴 カマドの左側、竪穴部の北西角に確認。長軸1.17m・短軸1.00m・深さ1.00m。柱穴 2基検出し、北西と北東の主柱穴と判断した。P1は長軸0.44m・深さ0.2m。P2は長軸0.44m・深さ0.16m。壁周溝 所々途切れるが、東壁と西壁の北半に確認。出土遺物 床面直上から土師器高坏と小型甕(2・3)、貯蔵穴の最下層から須恵器蓋(1)などが出土。時期 床面直上や貯蔵穴内の遺物と重複関係から6世紀後半と推定。

#### H-14号住居跡 (Fig.10・11, PL. 4)

位置 A区。X 205～207、Y 49～51 主軸方向 E-13°-N 規模 東西軸6.17m・南北軸(4.87)m・深さ0.48m。面積 (25.87)m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。床面 南東角を除いて、全体的に硬化面を確認。重複 H-3・5・6・7・12と重複。新旧関係はH-12→本造構→H-6→H-3・5→H-7。カマド 造り替えており、新旧2基確認した。新カマドは東壁に確認。全長(2.47)m・燃焼室内幅不明・煙道内幅(0.55)m。燃焼室は破壊され、袖部から奥壁にかけてU字状に掘り込まれており、歴先痕を確認した。燃焼室付近の覆土下層には石が散乱しており、構築材に関連するものと判断した。支脚は確認できず。煙道は広く、底面は平坦。煙道部も含め全体的に破壊されているが、焚口部付近に破壊をまぬがれた火床面と灰層をわずかに確認した。旧カマドは新カマドの南側に確認した。新カマドと同形状の幅広で土坑状の煙道部をもつ。これらの煙道形状は、H-13カマドの掘り方に類似する。貯蔵穴 カマドの右側、南東角に確認。長軸0.96m・短軸0.53m・深さ0.1m。中央が盛り上がりくぼみが2ヶ所に分かれる。北側のくぼみには灰の堆積を確認。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 カマド内から土師器坏(1)などが出土した。覆土下層から出土した須恵器甕の頸部片(3)は、H-12床面直上出土の胴部片(H-12-1)と同一個体の可能性がある。時期 カマド内の遺物と重複関係から6世紀後半と推定。

#### H-15号住居跡 (Fig.11, PL. 4)

位置 B区。X 201・202、Y 47・48 主軸方向 (E-29°-N) 規模 東西軸(3.3)m・南北軸(4.13)m・深さ0.35m。竪穴北東角部分を調査。面積 (10.27)m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。床面 南東にやや広い硬化面があり、西壁際にも僅かに確認できる。重複 H-13・16・20と重複。新旧関係はH-20→本造構→H-13→H-16。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中層に形成された遺物集中内からは、1の土師器長甕などが出る。時期 覆土下層出土遺物の組成

と重複関係から6世紀初頭と推定。備考 図示した竪穴北隅から出土した大量の遺物片は、覆土中層に分布しており、接合率は低く、埋没過程において廃棄されたものと判断した。

#### H-16号住居跡 (Fig.16, PL. 4)

位置 B区。X 201・202、46・47 主軸方向 (E - 26° - N) 規模 東西軸 (3.92) m・南北軸 (3.71) m・深さ 0.05 m。面積 (11.59) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。床面 硬化面は確認できず。重複 H-15・19・20、W-2 と重複。新旧関係は H-20・W-2 → H-15 → H-19 → 本遺構。カマド 竪穴北半に火床面が確認でき、調査区外にカマドが付属するものと想できる。

貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から土師器壺の破片などが出土。時期 重複関係から 10 ~ 11 世紀と推定。

#### H-17号住居跡 (Fig.8, PL. 4)

位置 B区。X 200・201、Y 47・48 主軸方向 E - 46° - S 規模 東西軸 (1.74) m・南北軸は確認できず・深さ 0.3 m。面積 (1.31) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 硬化面は確認できず。重複 H-9・13・21・22 と重複。新旧関係は H-21 → 本遺構 → H-13・22 → H-9。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から灰釉陶碗、須恵器羽釜、土師器土釜の破片などが出土。時期 覆土出土遺物の組成から 10 ~ 11 世紀と推定。

#### H-18号住居跡 (Fig.8, PL. 4)

位置 A区。X 206・207、Y 50・51 主軸方向 (E - 10° - N) 規模 東西軸 4.68 m・南北軸 (1.55) m・深さ 0.35 m。竪穴西部 1/3 部分を調査。面積 (5.59) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 東半部全面に硬化面を、北壁際中央にくぼみを確認。重複 H-6、A-1 と重複。新旧関係は本遺構 → H-6 → A-1。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土下層から土師器壺 (1) や管玉・臼玉 (2・3) などが出土した。1の壺は球胴。時期 覆土下層出土遺物の組成から 5世紀後半と推定。

#### H-19号住居跡 (Fig.11, PL. 4)

位置 B区。X 202、Y 46・47 主軸方向 (E - 2° - S) 規模 東西軸 (2.57) m・南北軸 (1.73) m・深さ 0.34 m。竪穴西側 1/2 部分を調査。面積 (4.71) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 硬化面は確認できず。重複 H-16・20、W-2 と重複。新旧関係は H-20・W-2 → 本遺構 → H-16。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土下層から須恵器高台付环や皿 (1・2) などが出土。時期 覆土下層出土遺物の組成と重複関係から 9世紀後半と推定。

#### H-20号住居跡 (Fig.12, PL. 5)

位置 B区。X 201・202、Y 47・48 主軸方向 (E - 20° - N) 規模 東西軸 (4.01) m・南北軸 4.99 m・深さ 0.66 m。竪穴西側 1/2 部分を調査。面積 (16.67) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。床面 竪穴中央部を中心に硬化面を確認。西角部分にもまだらに確認した。重複 H-13・15・16・19 と重複。新旧関係は本遺構 → H-15 → H-19 → H-13 → H-16。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。ピット 竪穴西壁際で確認した P 1 は出入り口ピットの可能性がある。壁周溝 確認できず。出土遺物 覆土下層～床面直上から土師器壺 (1~4) などが出土。時期 覆土下層～床面直上の遺物と重複関係から 5世紀後半と推定。

#### H-21号住居跡 (Fig.13, PL. 5)

位置 B区。X 200・201、Y 46～48 主軸方向 (E - 42° - S) 規模 東西軸 (4.87) m・南北軸 (3.06) m・深さ 0.13 m。竪穴南西側 1/3 部分を調査。面積 (14.53) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。床面 竪穴中央部に硬化面を確認。重複 H - 9・13・17・22、W - 1、D - 7 と重複。新旧関係は本遺構→H - 17→H - 13・22→H - 9→W - 1・D - 7。カマド 確認できず。貯蔵穴 確認できず。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 床面直上から樽式の壺 (1・2) が出土。時期 床面直上の遺物と重複関係から弥生時代後期と推定。

#### H-22号住居跡 (Fig.13, PL. 5)

位置 B区。X 200、Y 47 主軸方向 E - 28° - N 規模 東西軸 (1.00) m・南北軸 (2.04) m・深さ 0.50 m。南東角の一部分のみ調査。面積 (1.08) m<sup>2</sup> 覆土 As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。上層は Hr-FA ブロックを多く含み、中層は As-C を多く含む。床面 硬化面は確認できず。重複 H - 17・21 と重複。新旧関係は H - 21→H - 17→本遺構。カマド 東壁に確認。全長 (0.39) m・燃焼室内幅 (0.3) m・煙道内幅不明 m。燃焼室は被熱し、やや硬い。支脚は確認できず。煙道は確認できず。火床面と灰層は確認できず。貯蔵穴 竪穴部の南東角に確認。長軸 (0.65) m・短軸 (0.25) m・深さ 0.64 m。柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 確認できず。出土遺物 覆土中から土師器壺 (内斜口縁坏) の破片などが出土。時期 覆土出土遺物の組成と重複関係から 6世紀初頭と推定。

## 2. 道路状遺構

#### A-1号道路状遺構 (Fig.13)

位置 A区。X 204～208、Y 51 主軸方向 E - 2° - S 規模 長さ (17.54) m・幅 (2.62) m。調査区外のため、南側の立ち上がりは確認できず。形状 断面逆台形で大型の溝状。上層に硬化面を持つ。走向は直線的。重複 H - 2・10・18 と重複。新旧関係は H - 18→H - 10→H - 2→本遺構。覆土 As-B を含む黒褐色土を基調とする。硬化面 北側の壁際を除いて、全体的に硬化面を確認。出土遺物 覆土中から灰釉陶器壺や碗の破片などが出土。時期 覆土出土遺物の組成と重複関係から中世以降と推定。

## 3. 溝

#### W-1号溝 (Fig.13)

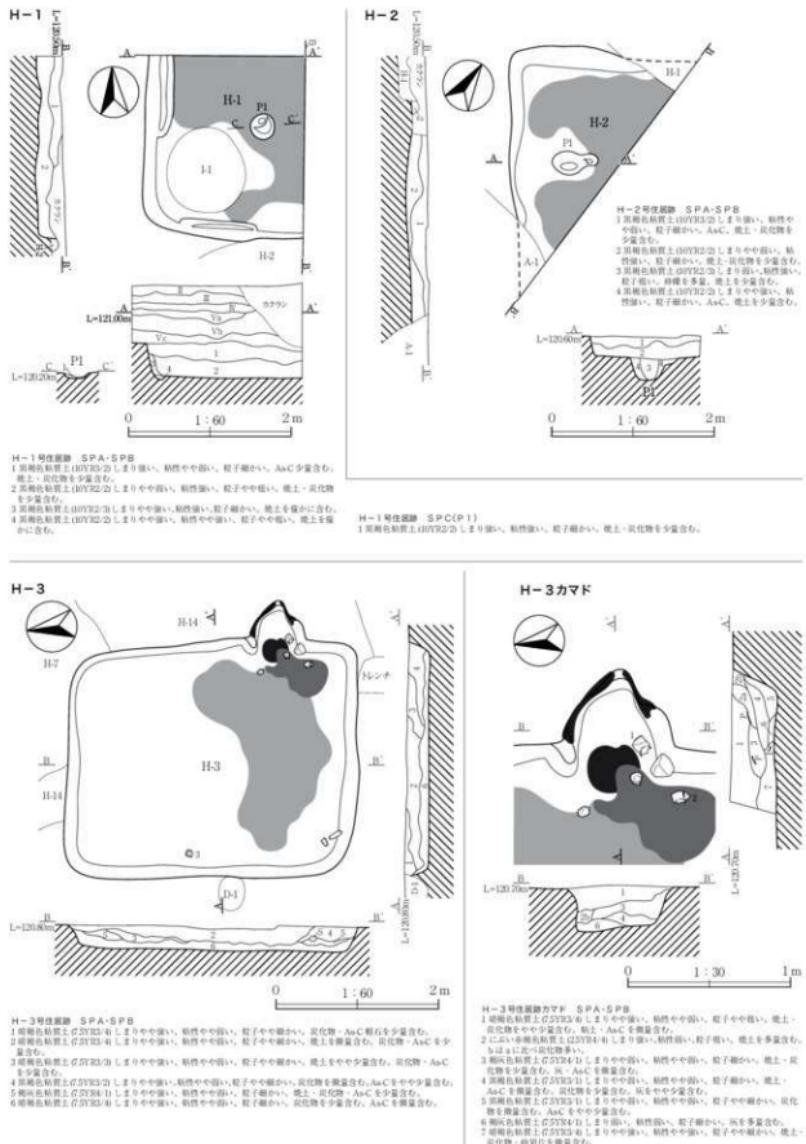
位置 B区。X 201、Y 45～47 主軸方向 N - 6° - E 規模 長さ (6.82) m・上幅 0.64 m・下幅 0.47 m・深さ 0.13 m 形状等 南北に走向する。断面は弧状を呈する。重複 H - 21、D - 3・9・12 と重複。新旧関係は H - 21→D - 12→本遺構→D - 3・9。覆土 As-B を含む黒褐色土を基調とする。出土遺物 覆土中から灰釉陶器碗の破片などが出土。時期 覆土出土遺物の組成と重複関係から中世以降と推定。

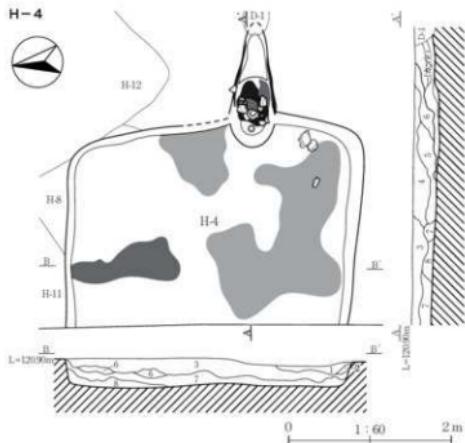
#### W-2号溝 (Fig.13)

位置 B区。X 201、Y 46 主軸方向 S - 45° - E 規模 長さ (3.42) m・上幅 0.51 m・下幅 0.31 m・深さ 0.2 m 形状等 北西から南東に走向する。断面は弧状を呈する。重複 H - 16・19、W - 1、D - 9 と重複。新旧関係は本遺構→H - 19→H - 16→W - 1→D - 9。覆土 As-C を含む黒褐色土を基調とする。出土遺物 覆土中から土師器壺 (内斜口縁坏) の破片などが出土。時期 重複関係から 6世紀初頭と推定。

## 4. 井戸、土坑、ピット (Fig.13)

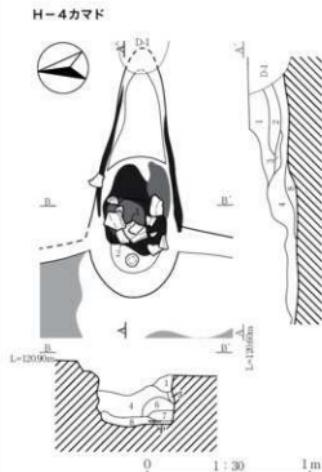
井戸を 1 基、土坑を 13 基、ピットを 2 基検出した。井戸は湧水したため底面まで調査できず。D - 1・3～10 は覆土に As-B を含むことから中世以降の土坑と判断した。小片の為図示に至らないが、D - 7 からは綠釉陶器の破片が出土した。D - 13 は、調査段階では H - 14 に伴う焼土跡と考えていたが、重複する各遺構の平・断面、遺物出土状況を点検したところ、炭化材、焼土塊、焼成粘土塊 (D - 13 - 焼成粘土塊) を多量に含む土坑と判断した。調査時に平面的には確認できなかったが、炭化物・焼成粘土塊の分布、断面から範囲を推定した。各遺構の計測値については、Tab. 2 に示す。





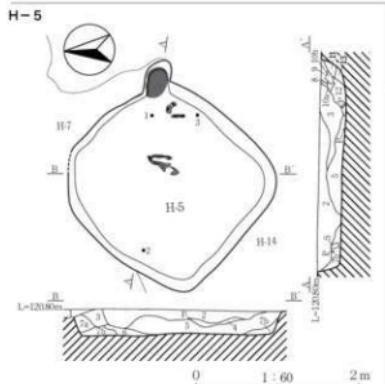
H-4 対岸断面 SPA-SPB

- 1 断面岩質上 GSYE2-D しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子を細粒含む。
- 2 断面岩質上 GSYE3-3 しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子を細粒含む。
- 3 断面岩質上 GSYE3-2 しまりやや硬い。粘性やや弱い。炭化物を多量含む。As-Cを少量含む。
- 4 断面岩質上 GYH2C-4 しまりやや弱い。粘性やや弱い。炭化物・As-Cをやや多量含む。鉄鉱石を少量含む。
- 5 断面岩質上 GYH2C-1 しまりやや弱い。粘性やや弱い。粒子を細粒含む。炭化物・As-Cを少量含む。
- 6 断面岩質上 GYH2C-2 しまりやや弱い。粘性やや弱い。炭化物を少量含む。粘土を微量含む。
- 7 断面岩質上 GSYE2C-2 しまりやや弱い。粘性やや弱い。炭化物・As-Cを細粒含む。粘土を少量含む。炭酸カルシウムを少量含む。
- 8 断面岩質上 GSYE2C-1 しまりやや弱い。粘性やや弱い。粒子を細粒含む。炭化物・As-Cを少量含む。



H-4カマド断面 SPC-SPB

- 1 断面岩質上 GSYE2-D しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子粗い。炭土・As-Cをやや少量含む。
- 2 断面岩質上 GSYE3-2 しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子粗い。炭土をやや多量含む。As-Cをやや少量含む。
- 3 断面岩質上 GSYE5-4 しまりやや硬い。粘性弱い。粒子粗い。炭土を多量含む。As-Cをやや少量含む。
- 4 断面岩質上 GSYE4-2 しまりやや弱い。粘性弱い。粒子粗い。As-Cを少量含む。
- 5 断面岩質上 GSYE5-2 しまりやや硬い。粘性弱い。粒子粗い。炭土をやや多量含む。
- 6 断面岩質上 GSYE4-1 しまりやや弱い。粘性弱い。粒子粗い。As-Cを少量含む。
- 7 断面岩質上 GYH2C-2 しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。炭化物を少量含む。
- 8 断面岩質上 GSYE4-1 しまりやや弱い。粘性弱い。粒子細かい。炭化物を多量含む。



H-5 対岸断面 SPA-SPB

- 1 断面岩質上 GSYE2-D しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。炭化物・As-Cを少量含む。
- 2 断面岩質上 GSYE2B-2 しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。炭化物をやや少量含む。As-Cを少量含む。
- 3 断面岩質上 GSYE2B-3 しまりやや硬い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。炭化物をやや少量含む。As-Cを少量含む。
- 4 断面岩質上 GSYE2B-4 しまりやや弱い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。炭化物・As-Cを少量含む。
- 5 断面岩質上 GYH2C-2 しまりやや弱い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。炭化物・As-Cを少量含む。
- 6 断面岩質上 GYH2C-3 しまりやや弱い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。As-Cを少量含む。
- 7 断面岩質上 GSYE2C-2 しまりやや弱い。粘性やや弱い。粒子やや弱い。As-Cを少量含む。
- 8 断面岩質上 GSYE2C-1 しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや弱い。As-Cを少量含む。

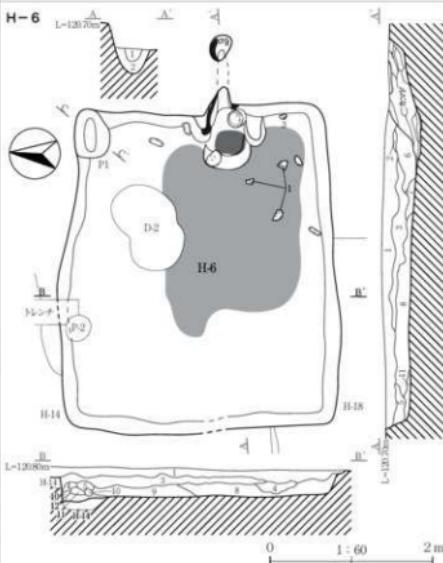
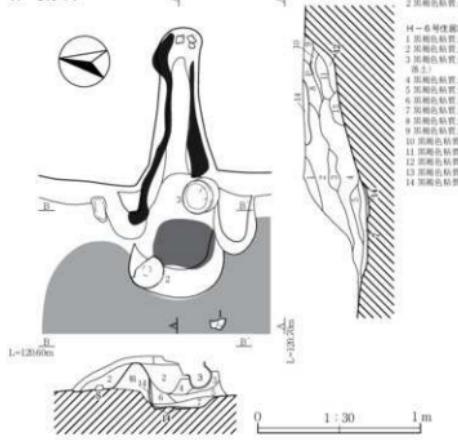


Fig. 6 H-4 ~ 6号住居跡

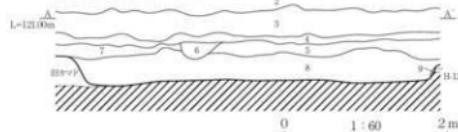
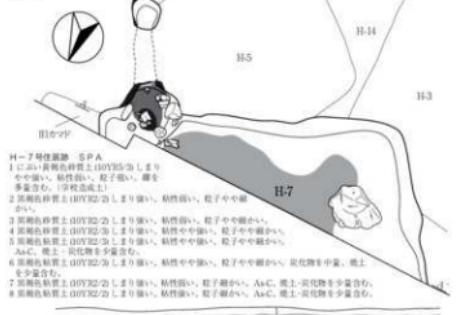
#### H-6号住跡地 S.P.A-S.P.B

- 1 布施地粘土上(75YR2/3)にしまりやや深い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、粒子をやや多量含む。
- 2 布施地粘土上(75YR2/3)にしまりやや深い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 3 布施地粘土上(75YR2/3)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土・炭化物を少量含む。
- 4 布施地粘土上(75YR2/3)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、AaCを多量含む。
- 5 布施地粘土上(75YR2/3)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土・炭化物・AaCをやや少量含む。

#### H-6カマド



#### H-7



- H-7号住跡地 S.P.A
- 1 に(2)黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子細かい、粒子を多量含む。
  - 2 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子細かい、底土・炭化物を少量含む。
  - 3 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
  - 4 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
  - 5 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
  - 6 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子やや細かい、底土・炭化物を少量含む。
  - 7 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
  - 8 黄色地粘土上(75YR3/2)にしまりやや浅い、粘性弱い、粒子やや細かい、底土・炭化物を少量含む。

- H-7号住跡地 S.P.A-S.P.B
- 1 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや深い、粘性強い、粒子やや細かい、底土・炭化物・底土をやや多量含む。
  - 2 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土・炭化物を少量含む。
  - 3 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土・炭化物を少量含む。
  - 4 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土を少量含む。
  - 5 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土を少量含む。
  - 6 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土を少量含む。
  - 7 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。
  - 8 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。
  - 9 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。
  - 10 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を多量含む。
  - 11 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
  - 12 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、AaCを多量含む。

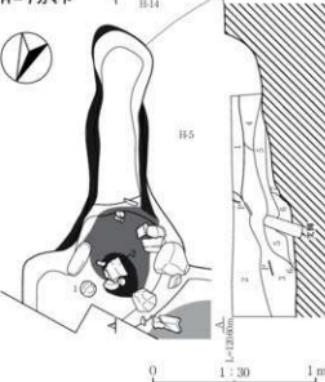
#### H-6号住跡地 S.P.C (1)

- 1 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子やや細かい、底土・炭化物・底土をやや多量含む。
- 2 布施地粘土上(75YR3/2)にしまりやや弱い、粘性強い、底土を少量含む。

#### H-6号住跡地カマド S.P.A-S.P.B

- 1 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、AaCを少量含む。
- 2 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、AaC、底土・炭化物を少量含む。
- 3 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 4 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 5 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 6 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 7 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 8 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 9 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 10 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 11 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 12 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 13 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい、底土を少量含む。
- 14 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。

#### H-7カマド



#### H-7号住跡地カマド S.P.A

- 1 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土により硬く焼いている。
- 2 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい、底土・炭化物を少量含む。
- 3 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性強い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 4 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 5 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 6 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 7 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。
- 8 布施地粘土上(75YR2/2)にしまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい、底土を少量含む。

#### H-7旧カマド

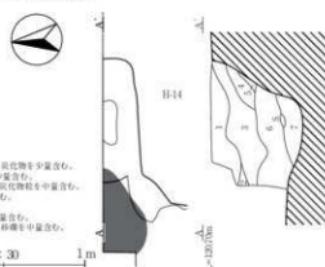
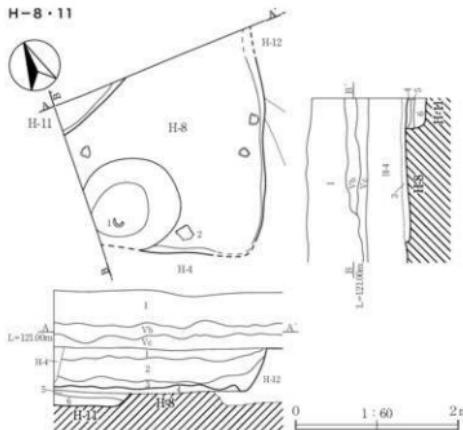
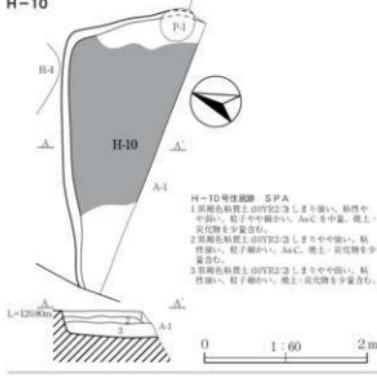


Fig. 7 H-6・7号住跡地

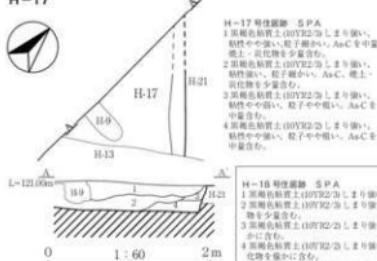
H-8・11



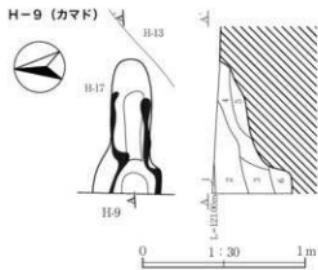
H-10



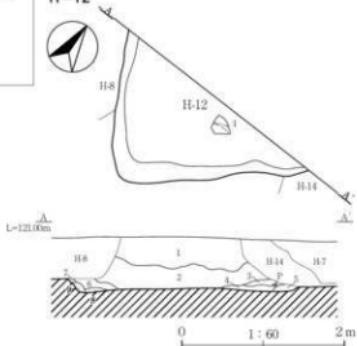
H-17



H-9 (カマド)



H-12



H-18

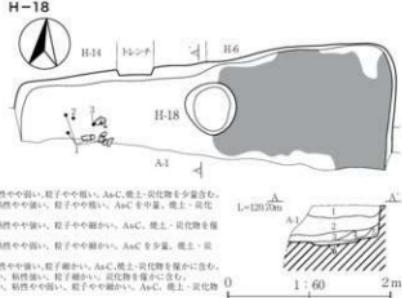
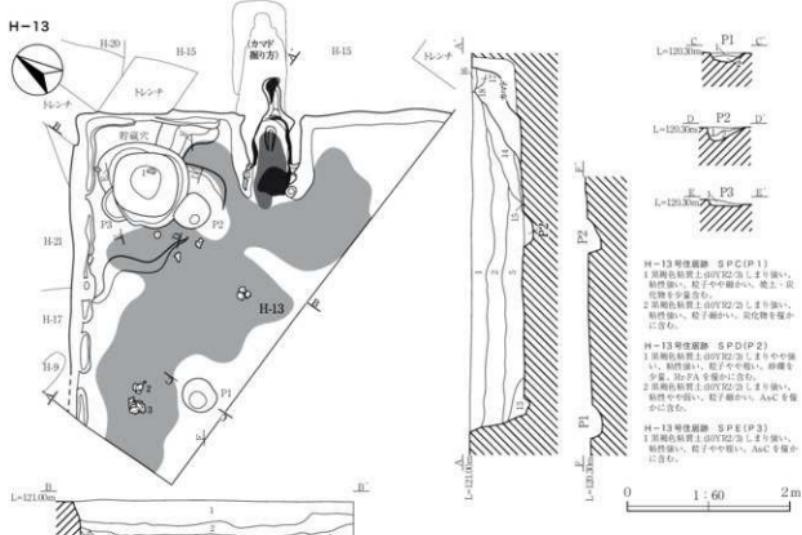


Fig. 8 H-8~12・17・18号住居断面



H-13号機器群 SPA・SPB

1 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや大きい。AaCを多く含む。地上、葉裏に多く見られる。

2 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaプロック、AaC、地上、葉裏に多く見られる。

3 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaプロック、AaC、地上、葉裏に多く見られる。

4 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaプロックを少し。AaC、地上、葉裏に多く見られる。

5 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、葉裏に多く見られる。

6 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、葉裏に多く見られる。

7 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaを多く含む。

8 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaを多く含む。

9 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaを多く含む。

10 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaプロックを少し含む。

11 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFaを多く含む。

12 黒穀開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。11月以前に多く見られる。

13 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、地上部を多く含む。

14 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、地上部を多く含む。

15 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、地上部を多く含む。

16 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、地上部を多く含む。

17 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、地上部を多く含む。

18 開花後軸果(10Y22)：2より多い、穂状でやや細い。粒子をやや細い。HdFa、地上部を多く含む。

H-13号佳丽胶力胶  
SPA·SPB

1 黄褐色斑葉上 G5Y93(3) しまりやや弱い。柔軟やや弱い。粒子粗い。硬土、粘土をやや多量含む。  
 2 黄褐色斑葉上 G5Y93(3) しまりやや弱い。柔軟やや弱い。粒子やや細かい。炭化物-Ag-C 少量含む。  
 3 黄褐色斑葉上 G5Y93(3) しまりやや弱い。柔軟やや弱い。粒子やや細かい。硬土や中量、炭化物少量含む。

4. 用黑色精囊上右5YR3/1) 墓与带  
全紫红。

5 黄褐色砂积土 (3YR4/1) しまりや軽い、粘性やや弱い、粒子やや細い。氯化物を微量含む。  
6 黑褐色砂积土 (3YR2/1) しまりや軽い、粘性やや弱い、粒子やや細かく。氯化物を少量含む。人  
為施肥有。

テに添付褐色粘質土(5YR6/6 しまりや  
色)を用いた場合の結果を示す。

9. 木地色熟質土 (GYS-303-1) しまりやや弱い、粘性弱い。粒子やや粗い。燒土をやや多量含む。  
9. 木地色熟質土 (GYS-303-1) しまりやや弱い、粘性弱い。粒子やや粗い。燒土をやや少量含む。  
10. 鳥羽色熟質土 (GYS-303-1) しまりやや弱い、粘性弱い。粒子やや粗い。燒土を多量含む。但し物  
やや少量含む。

II 加齢性病変上での細胞生物学的変化

12 黄色粘質土 (0Y32/3) しまり固い。粘性やや弱い。粒子細かい。風土・化成物を多く含む。風土多量含む。

13 黄色粘質土 (0Y32/4) しまり固い。粘性やや弱い。粒子細い。風土・化成物・从石を少量含む。

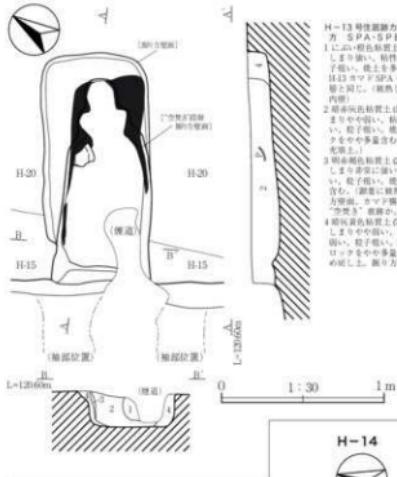
14 風土質黄色粘質土 (0Y35/2) しまりやや強い。粘性やや強い。粒子やや粗い。白色粘土を多量含む。

總計微盈合心。

Fig. 9

Fig. 9 H-13号住居跡

H-13 カマド掘り方



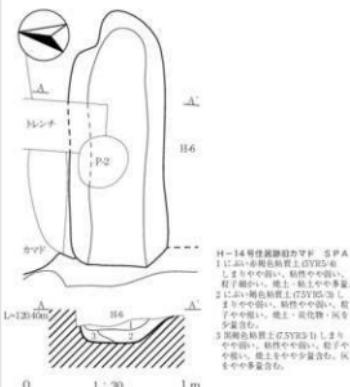
H-14 男性尿道 SPA+SPB



H-14 号住處號 SPC(附註六)



H-14 旧カマド



14

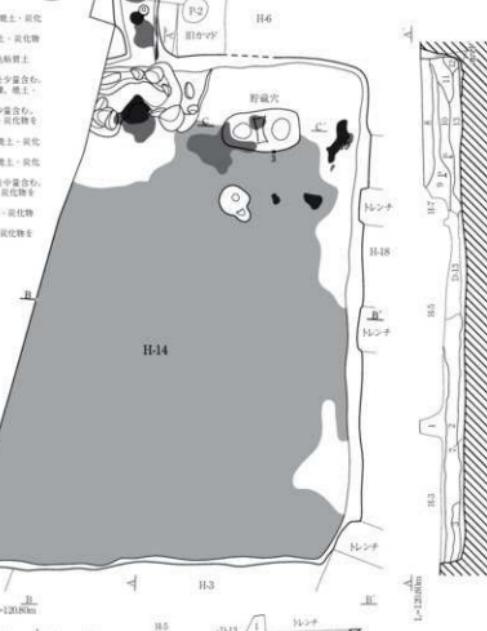


Fig.10 H-13·14号住居路

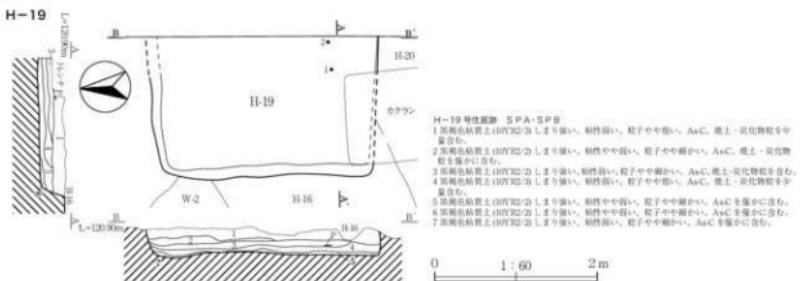
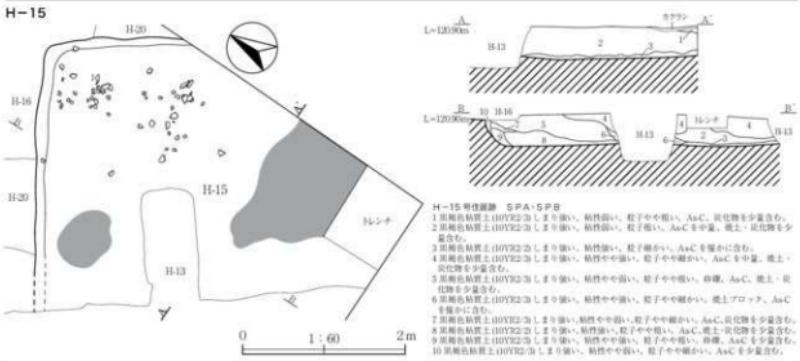
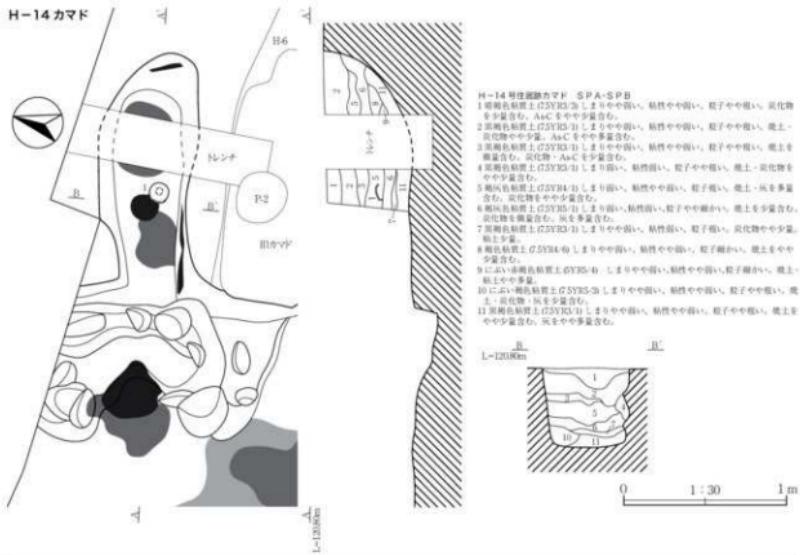
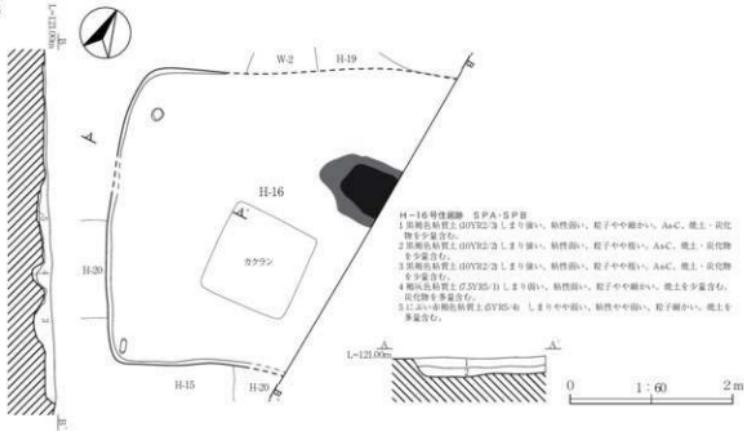
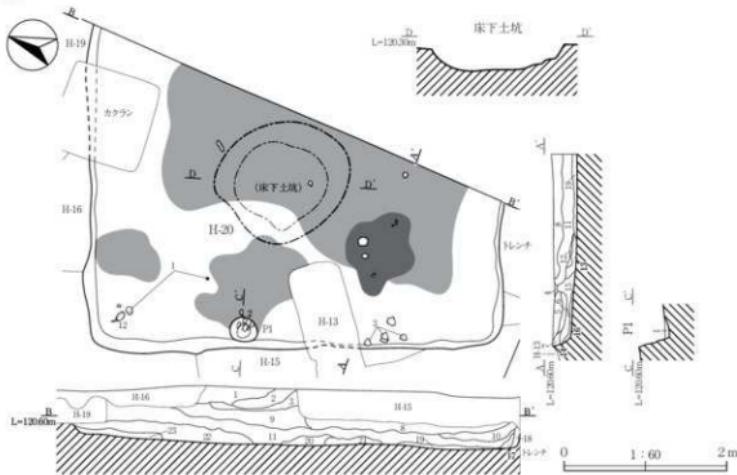


Fig.11 H-14・15・19号住跡

H-16



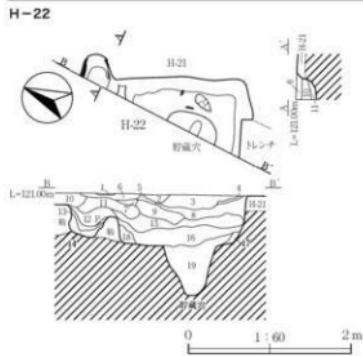
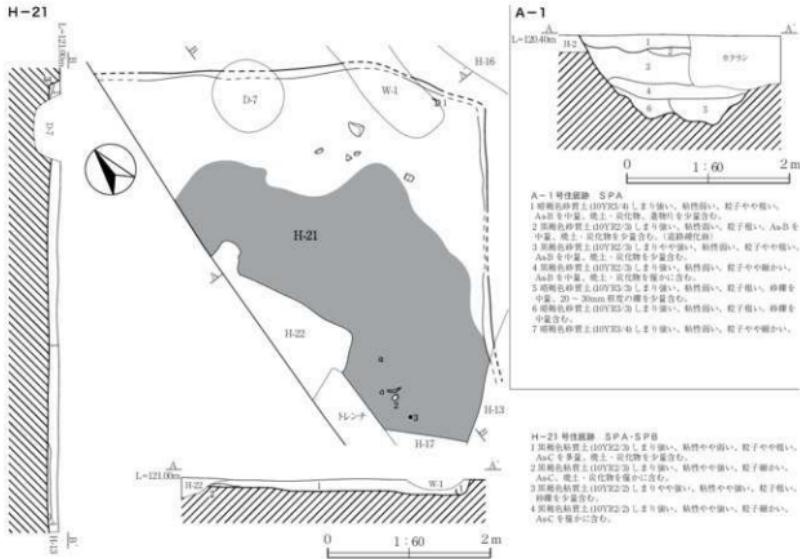
H-20



H-20 住居跡 SPC (P1)

1. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
2. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
3. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
4. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
5. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
6. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
7. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
8. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
9. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまり悪い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
10. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
11. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
12. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
13. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
14. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
15. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
16. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
17. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
18. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
19. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
20. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。極端な粘性土 (0YR3-3) As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
21. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。極端な粘性土 (0YR3-3) As-C。底土・炭化物を僅少に含む。
22. 極端な粘性土 (0YR2-2) しまりやや弱い。粘性弱い。粒子やや細かい。0層 (P1) カラシ含む。

Fig.12 H-16 · 20号住居跡



H-22号機座標 SPA-SPB

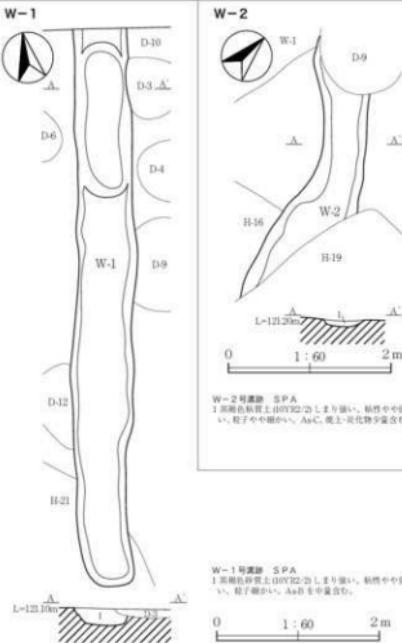


Fig.13 H-21·22号住居跡、A-1号道路状遺構、W-1·2号溝跡

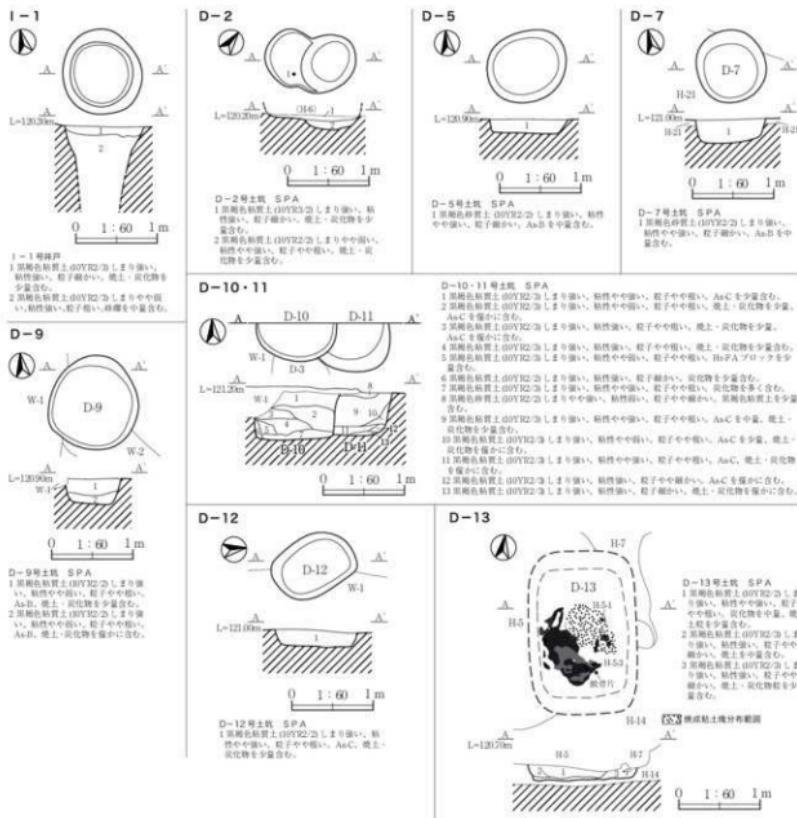


Fig.14 I - 1 号井戸、D - 2・5・7・9～13号土坑

Table 2 井戸、土坑、ピット計測表

| 通称名            | 位 置                   | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 深さ (m) | 平面形状 | 主な遺物      | 時期          | 備考                               |
|----------------|-----------------------|--------|--------|--------|------|-----------|-------------|----------------------------------|
| A.III - 1      | X300, Y30             | 1.00   | 0.97   | —      | (円形) | 羽林部小屋     | H - 11 本遺物。 | 新開闢 H - 1 → 本遺物。                 |
| A.III - D - 1  | X305, Y30             | 0.45   | 0.33   | 0.3    | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 3 → H - 4 本遺物。           |
| A.III - D - 2  | X307, Y30             | 1.13   | 0.73   | 0.15   | 不整円形 | 羽林部小屋 (1) | 13世紀        | 新開闢 H - 6 → 本遺物。                 |
| B.III - D - 3  | X301, Y 45            | 0.85   | 0.65   | 0.13   | 不整円形 | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 1 → 本遺物。                 |
| B.III - D - 4  | X301, Y 46            | 0.96   | 0.88   | 0.12   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - D - 3 → 本遺物。             |
| B.III - D - 5  | X301, Y 46, Y 46      | 1.02   | 0.96   | 0.16   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 1 → 本遺物。                 |
| B.III - D - 6  | X301, Y 45 - 46       | 0.67   | 0.64   | 0.13   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 1 → 本遺物。                 |
| B.III - D - 7  | X300 - 301, Y 45 - 47 | 0.69   | 0.68   | 0.16   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 1 → 本遺物。                 |
| B.III - D - 8  | X301, Y 45 - 46       | 0.91   | 0.92   | 0.09   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 1 → 本遺物。                 |
| B.III - D - 9  | X301, Y 46            | 1.14   | 1.11   | 0.11   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - W - 1 → 本遺物。             |
| B.III - D - 10 | X301, Y 45            | 1.060  | 0.940  | 0.29   | (円形) | —         | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - D - 9 → 本遺物。             |
| B.III - D - 11 | X301, Y 45            | 0.980  | 0.960  | 0.29   | (円形) | 土器部・漆・墨   | 5 - 6世紀     | 新開闢 土器部 H - D - 10。              |
| B.III - D - 12 | X301, Y 46            | 1.020  | 0.974  | 0.2    | 楕丸形  | 土器部・漆・墨   | 5 - 6世紀     | 新開闢 土器部 H - 11。                  |
| A.III - D - 13 | X306, Y 30            | —      | —      | —      | —    | 羽林部小屋     | 9 - 10世紀    | 新開闢 H - 5 - 木造構築。壁土・灰化物・陶瓦類多く含む。 |
| A.III - P - 1  | X206, Y 51            | 0.620  | 0.60   | 0.09   | (円形) | 羽林部小屋     | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 10 → 本遺物。                |
| A.III - P - 2  | X307, Y 30            | 0.33   | 0.2    | 0.25   | (円形) | 羽林部小屋     | 中世Ⅱ期        | 新開闢 H - 6 → 本遺物。                 |

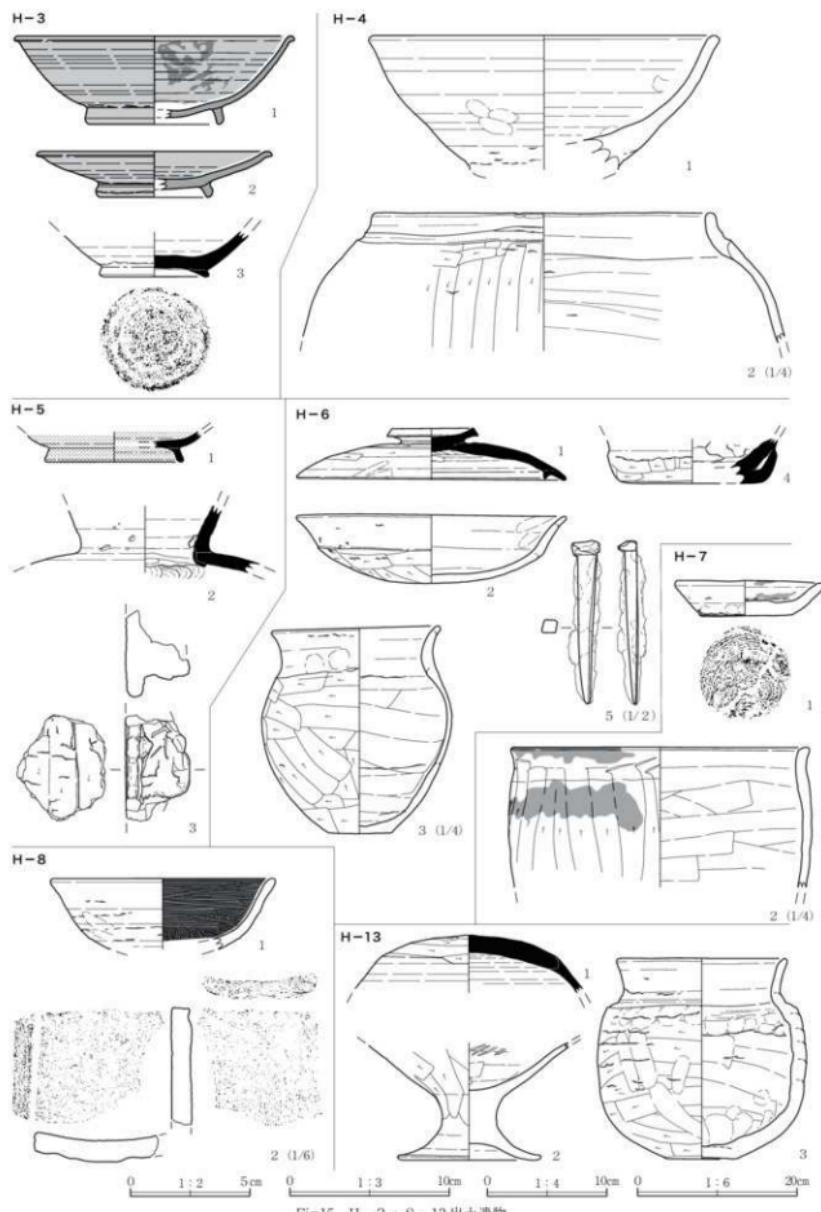


Fig15 H-3 ~ 8 · 13出土遺物

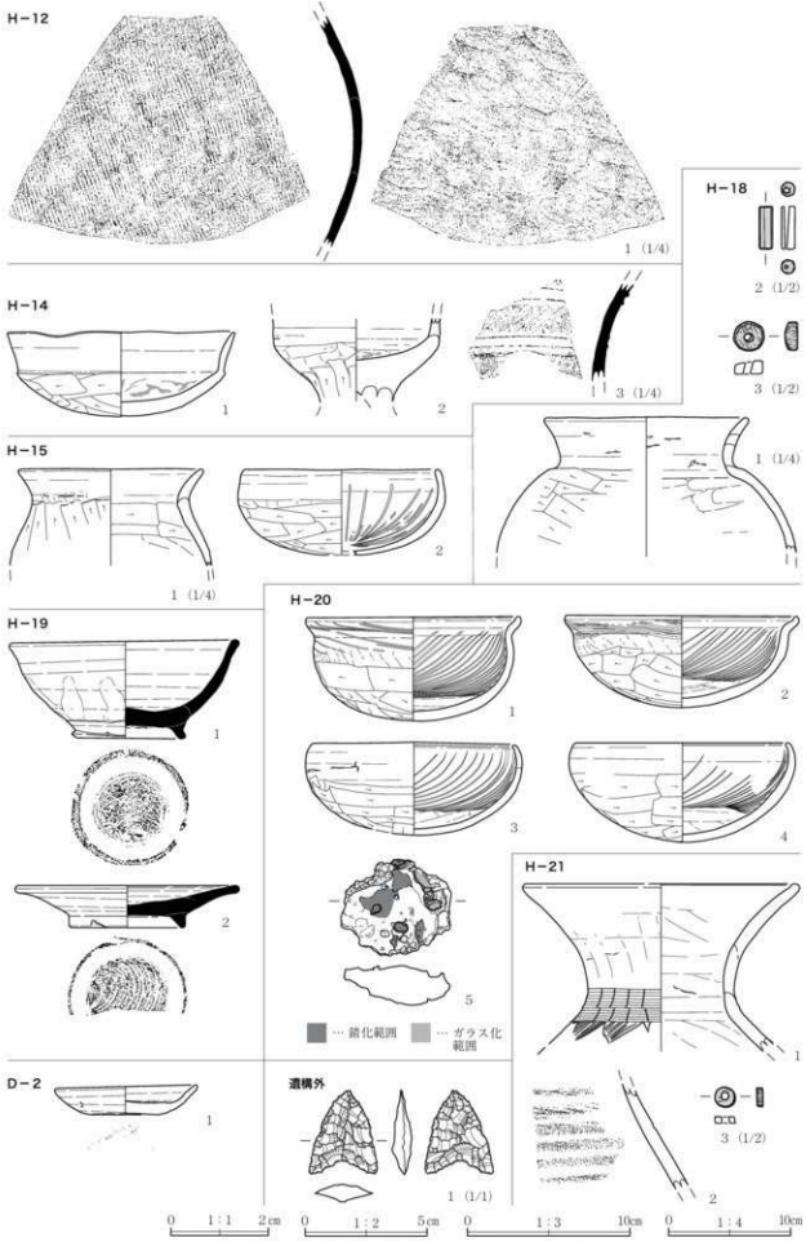


Fig.16 H-12・14・15・18～21, D-2、遺構外出土遺物

Tab. 3 元祐北小学校遺跡出土遺物観察表

H - 3

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径     | 底径    | 高さ  | 土質           | 焼成 | 色調            | 基形、成・整形、文様等の特徴  | 現地状況・備考   |
|----|------|----------|--------|-------|-----|--------------|----|---------------|---|---|
| 1  | 76c1 | 灰陶器<br>瓶 | (17.6) | (8.6) | 5.8 | 細粒微少孔性<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側   | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。内側・外側ともに「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm<br>内側・外側ともに「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 |
| 2  | 76c4 | 灰陶器<br>瓶 | (14.6) | (6.6) | 2.9 | 粗粒颗粒<br>粘土   | 均焼 | 灰白<br>内側・外側   | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。内側・外側ともに「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.4cm<br>内側・外側ともに「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 |
| 3  | 76c8 | 灰陶器<br>瓶 | —      | —     | 2.0 | 颗粒・粗<br>粘土   | 均焼 | 灰白・灰<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。   | 1.5cm<br>内側・外側。                                   |

H - 4

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径     | 底径 | 高さ   | 土質          | 焼成 | 色調          | 基形、成・整形、文様等の特徴                                | 現地状況・備考             |
|----|------|----------|--------|----|------|-------------|----|-------------|---|---------------------|
| 1  | 76d2 | 灰陶器<br>瓶 | (22.0) | —  | 9.0  | 粗粒・颗粒<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。<br>内側・外側。 | 上縁・側面1.5cm<br>焼成直後。 |
| 2  | 76d3 | 灰陶器<br>瓶 | (22.5) | —  | 11.0 | 粗粒・颗粒<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。<br>内側・外側。 | 上縁・側面1.5cm<br>焼成直後。 |

H - 5

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径 | 底径    | 高さ  | 土質           | 焼成 | 色調          | 基形、成・整形、文様等の特徴                                | 現地状況・備考             |
|----|------|----------|----|-------|-----|--------------|----|-------------|---|---------------------|
| 1  | 76e1 | 灰陶器<br>瓶 | —  | (8.6) | 1.0 | 颗粒微少孔性<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。<br>内側・外側。 | 上縁・側面1.5cm<br>焼成直後。 |
| 2  | 76e2 | 灰陶器<br>瓶 | —  | —     | 1.0 | 颗粒微少孔性<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。           | 上縁・側面1.5cm<br>焼成直後。 |

No

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径    | 底径    | 高さ  | 土質         | 焼成 | 色調          | 基形、成・整形、文様等の特徴  | 現地状況・備考 |
|----|------|----------|-------|-------|-----|------------|----|-------------|---|---------|
| 3  | 76e4 | 灰陶器<br>瓶 | (8.7) | (3.0) | 1.0 | 颗粒・粗<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸をもつ。内側・外側の底盤の底面、内側・外側ともに「アラカルト」状の凹凸がある。 | 内側・外側。  |

H - 6

| No | 出土位置   | 種別、器種    | 口径 | 底径    | 高さ   | 土質           | 焼成   | 色調            | 基形、成・整形、文様等の特徴  | 現地状況・備考         |
|----|--------|----------|----|-------|------|--------------|------|---------------|---|-----------------|
| 1  | 76f1~6 | 灰陶器<br>瓶 | —  | (8.6) | 1.0  | 颗粒微少孔性<br>粘土 | 均焼   | 灰白<br>内側・外側   | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。<br>内側・外側。         | 40cm.<br>底盤直下。  |
| 2  | 76f2   | 灰陶器<br>瓶 | —  | —     | 4.0  | 颗粒・粗<br>粘土   | 均焼   | 灰白<br>内側・外側   | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。                   | 2.5cm.<br>底盤直下。 |
| 3  | 76f2~7 | 灰陶器<br>瓶 | —  | —     | 14.2 | 5.3          | 22.5 | 石英岩質・黄<br>白粘土 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。                   | 底盤直下。           |
| 4  | 裏      | 灰陶器<br>瓶 | —  | —     | 10.0 | 颗粒・粗<br>粘土   | 均焼   | 灰白<br>内側・外側   | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。                   | 底盤直下。           |
| No | 出土位置   | 種別、器種    | 口径 | 底径    | 厚さ   | 土質           | 焼成   | 色調            | 基形、成・整形、文様等の特徴  | 現地状況・備考         |
| 5  | 裏      | 灰陶器<br>瓶 | —  | —     | 1.0  | 颗粒・粗<br>粘土   | 均焼   | 灰白<br>内側・外側   | 表面に「アラカルト」状の凹凸をもつ。内側・外側の底盤の底面、内側・外側ともに「アラカルト」状の凹凸がある。 | 底盤直下。           |

H - 7

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径     | 底径    | 高さ  | 土質            | 焼成 | 色調         | 基形、成・整形、文様等の特徴                                | 現地状況・備考         |
|----|------|----------|--------|-------|-----|---------------|----|------------|---|-----------------|
| 1  | 76g1 | 白石器<br>碗 | (14.0) | (6.0) | 2.4 | 高石・白色砂質<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。<br>内側・外側。 | 2.5cm.<br>底盤直下。 |
| 2  | 76g2 | 白石器<br>碗 | (12.0) | 8.0   | 4.4 | 高石・白色<br>粘土   | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。           | 2.5cm.<br>底盤直下。 |

H - 8

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径     | 底径     | 高さ  | 土質            | 焼成 | 色調         | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考         |
|----|------|----------|--------|--------|-----|---------------|----|------------|-------------------------------------|-----------------|
| 1  | 76h2 | 白石器<br>碗 | (14.0) | —      | 4.0 | 高石・白色砂質<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。 |
| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径     | 底径     | 厚さ  | 土質            | 焼成 | 色調         | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考         |
| 2  | 76i1 | 瓦        | (14.0) | (10.0) | 2.0 | 高石・黑色<br>粘土   | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。 |

H - 12

| No | 出土位置 | 種別、器種    | 口径 | 底径 | 高さ  | 土質          | 焼成 | 色調          | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考         |
|----|------|----------|----|----|-----|-------------|----|-------------|-------------------------------------|-----------------|
| 1  | 76j2 | 灰陶器<br>瓶 | —  | —  | 1.0 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。 |

H - 13

| No | 出土位置     | 種別、器種    | 口径   | 底径  | 高さ  | 土質          | 焼成 | 色調          | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考         |
|----|----------|----------|------|-----|-----|-------------|----|-------------|-------------------------------------|-----------------|
| 1  | 76k9     | 灰陶器<br>瓶 | —    | —   | 1.0 | 粗粒・小<br>颗粒  | 均焼 | 灰白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。 |
| 2  | 76k10    | 灰陶器<br>瓶 | —    | —   | 1.0 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側  | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。 |
| 3  | 76k10~11 | 灰陶器<br>瓶 | 10.7 | 4.0 | 3.0 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側  | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 2.5cm.<br>底盤直下。 |

H - 14

| No | 出土位置  | 種別、器種    | 口径     | 底径 | 高さ  | 土質          | 焼成 | 色調         | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考                 |
|----|-------|----------|--------|----|-----|-------------|----|------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 76l30 | 灰陶器<br>瓶 | (12.0) | —  | 5.3 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 3.5cm.<br>「無鉛燒成土器」。サマダ。 |
| 2  | 裏     | 灰陶器<br>瓶 | —      | —  | 5.0 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。         |

H - 15

| No | 出土位置    | 種別、器種    | 口径     | 底径 | 高さ  | 土質          | 焼成 | 色調         | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考                 |
|----|---------|----------|--------|----|-----|-------------|----|------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 76l32-1 | 灰陶器<br>瓶 | (15.2) | —  | 9.0 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>「無鉛燒成土器」。サマダ。 |
| 2  | 裏       | 灰陶器<br>瓶 | —      | —  | 5.4 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>底盤直下。         |

H - 18

| No | 出土位置            | 種別、器種    | 口径     | 底径 | 高さ   | 土質          | 焼成 | 色調         | 基形、成・整形、文様等の特徴                      | 現地状況・備考                 |
|----|-----------------|----------|--------|----|------|-------------|----|------------|-------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 76o-6・7<br>—・底上 | 灰陶器<br>瓶 | (14.0) | —  | 11.4 | 颗粒・白色<br>粘土 | 均焼 | 白<br>内側・外側 | 表面に「アラカルト」状の凹凸があり、「(口付高部) 縦筋+L字彫り」。 | 1.5cm.<br>「無鉛燒成土器」。サマダ。 |

| No | 出土位置 | 種別  | 基盤 | 奥行き | 幅   | 厚さ   | 材質  | 色調    | 重量   | 断面・成・形態、文様等の特徴  | 現存状況・備考      |
|----|------|-----|----|-----|-----|------|-----|-------|------|---|--------------|
| 2  | 36a1 | 石製品 | 白玉 | 181 | 603 | 0.62 | 褐色系 | 濃緑    | 13 g | 外縁斜削、切妻による上部の傾斜性に有する。<br>内縁は直線で、下縁は丸みを帯びる。<br>全長約21.0mm、下縁直径約5.7mm。 | 現存。<br>出土下限。 |
| 3  | 36a2 | 石製品 | 白玉 | 119 | 119 | 0.58 | 青石  | 赤茶・黒茶 | 12 g | 外縁斜削、切妻による上部の傾斜性に有する。<br>内縁は直線で、下縁は丸みを帯びる。<br>全長約11.9mm、下縁直径約3.5mm。 | 現存。<br>出土下限。 |

#### H - 19

| No | 出土位置  | 種別  | 基盤  | 口径   | 底径 | 高さ   | 施土      | 焼成 | 色調             | 断面・成・形態、文様等の特徴                                   | 現存状況・備考          |
|----|-------|-----|-----|------|----|------|---------|----|----------------|--|------------------|
| 1  | 36a-1 | 瓦器類 | 泥合物 | 138a | 71 | 46.1 | 灰瓦、黑色瓦  | 墨繪 | 外縁:灰瓦<br>内縁:墨繪 | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より高台削り、底盤に凹窓。<br>内縁:墨繪+テグス、瓦筋に凹窓。 | 現存。<br>出土下限、軸承部。 |
| 2  | 36a-3 | 瓦器類 | 泥合物 | 138a | 71 | 28   | 灰瓦、茶色糊瓦 | 墨繪 | 外縁:灰瓦<br>内縁:墨繪 | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より高台削り、底盤に凹窓。<br>内縁:墨繪+テグス。       | 現存。<br>出土下限。     |

#### H - 20

| No | 出土位置    | 種別  | 基盤 | 口径   | 底径  | 高さ  | 施土                 | 焼成 | 色調               | 断面・成・形態、文様等の特徴                             | 現存状況・備考                                      |               |
|----|---------|-----|----|------|-----|-----|--------------------|----|------------------|--|--|---------------|
| 1  | 36a-23  | 土器部 | 白玉 | 132  | —   | 6.1 | 灰瓦、白色瓦、<br>茶色糊瓦    | 高脚 | 外縁:白玉<br>内縁:白玉   | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より高台削り、底盤に凹窓。<br>内縁:墨繪+テグス。 | 現存。<br>底盤に凹窓。                                |               |
| 2  | 36a-2・裏 | 土器部 | 白玉 | 143  | —   | 56  | 灰瓦、<br>礫石、<br>白瓦   | 高脚 | 外縁:白玉<br>内縁:白玉   | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より高台削り、底盤に凹窓。<br>内縁:墨繪+テグス。 | 現存。<br>底盤に凹窓。                                |               |
| 3  | 36a-4   | 土器部 | 白玉 | 125  | —   | 57  | 灰瓦、<br>礫石、<br>白瓦   | 高脚 | 外縁:白玉<br>内縁:白玉   | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より高台削り、底盤に凹窓。<br>内縁:墨繪+テグス。 | 現存。<br>底盤に凹窓。                                |               |
| 4  | 36a-22  | 土器部 | 白玉 | 134a | —   | 62  | 灰瓦、<br>白瓦、<br>茶色糊瓦 | 高脚 | 外縁:白玉<br>内縁:茶色糊瓦 | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より高台削り、底盤に凹窓。<br>内縁:茶色糊瓦。   | 現存。<br>底盤に凹窓。                                |               |
| No | 出土位置    | 種別  | 基盤 | 口径   | 底径  | 厚さ  | 材質                 | 焼成 | 色調               | 断面・成・形態、文様等の特徴                             | 現存状況・備考                                      |               |
| 5  | 36a-20  | 石器  | 白玉 | 6.8  | 1.9 | 2.7 | 青石                 | —  | 外縁:白玉<br>内縁:灰瓦   | 20.8 g                                     | 外縁に凸出部、内縁にマッコリの跡有り。気泡有り、凹凸有り、底盤に凹窓。<br>側面丸み。 | 現存。<br>底盤に凹窓。 |

#### H - 21

| No | 出土位置  | 種別   | 基盤 | 口径   | 底径 | 高さ   | 施土                  | 焼成 | 色調             | 断面・成・形態、文様等の特徴   | 現存状況・備考       |
|----|-------|------|----|------|----|------|---------------------|----|----------------|--|---------------|
| 1  | 36a-9 | 生土上部 | 白玉 | 10.8 | —  | 10.5 | 灰瓦、<br>黑色瓦、<br>茶色糊瓦 | 高脚 | 外縁:白玉<br>内縁:白玉 | 外縁:初期の横窓による側面斜削を有し、内縁に斜削の丸みを有す。縫合部の内縁に一箇所の凹窓。<br>上部に一箇所の横窓を有す。 | 現存。<br>底盤に凹窓。 |
| 2  | 36a-2 | 生土上部 | 白玉 | —    | —  | 10.6 | 灰瓦、<br>白瓦           | 高脚 | 外縁:白玉<br>内縁:白玉 | 外縁:初期の横窓による側面斜削を有し、内縁に斜削の丸みを有す。縫合部の内縁に一箇所の凹窓を有す。               | 現存。<br>底盤に凹窓。 |
| No | 出土位置  | 種別   | 基盤 | 口径   | 底径 | 厚さ   | 材質                  | 焼成 | 色調             | 断面・成・形態、文様等の特徴   | 現存状況・備考       |
| 3  | 36a-1 | 生土上部 | 白玉 | 11.0 | —  | 0.78 | 0.78                | 白瓦 | 墨繪             | 外縁:墨繪+テグス、内縁:白玉。   | 現存。           |

#### 土坑

| No | 出土位置  | 種別  | 基盤 | 口径  | 底径  | 高さ  | 施土                 | 焼成   | 色調             | 断面・成・形態、文様等の特徴                     | 現存状況・備考 |
|----|-------|-----|----|-----|-----|-----|--------------------|------|----------------|------------------------------------|---------|
| 1  | D26a1 | 石器類 | 小葉 | 8.9 | 5.2 | 1.9 | 灰瓦、<br>小葉、<br>茶色糊瓦 | やや不均 | 外縁:白玉<br>内縁:白玉 | 外縁:墨繪+テグス、瓦筋の内縁より有り。<br>内縁:墨繪+テグス。 | 現存。     |

#### 遺構外

| No | 出土位置      | 種別 | 基盤 | 口径  | 底径  | 厚さ  | 材質  | 焼成 | 色調 | 断面・成・形態、文様等の特徴  | 現存状況・備考       |
|----|-----------|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|---|---------------|
| 1  | A14トレンチ-1 | 石器 | 白玉 | 1.7 | 1.3 | 0.4 | 無縫合 | —  | 無  | 丸筒形で、側面に複数の側面斜削。<br>側面斜削により丸みを有す。側面及び各面に丁字型の側面斜削を有している。 | 現存。<br>既存未発掘。 |

## VI 発掘調査の成果と課題

### 1. はじめに

今回の調査では、弥生時代後期から11世紀にかけての住居跡を22軒調査した。この中で量的な主体を占めるのは9世紀後半から10世紀後半にかけての遺構である。検出の傾向として重複が激しく、遺構密度も高い。その上、狭い範囲での調査のため遺構の大部分が調査区外にあり詳細が不明な箇所も多々あるが、ここではこれらの検出した住居跡を時期ごとに大別し、周辺の調査事例も含めて本遺跡の集落変遷と特徴についてまとめてみたい。

### 2. 集落の変遷と特徴

本遺跡から縄文時代の遺構は確認できなかったが、覆土層中から縄文土器片（H-1～4・13・15・18）や、遺構外だが黒曜石の石蹴（遺構外-1）などが出土した。周辺遺跡でも同様に遺構は検出されないが、遺物は出土する例は多く、総社開闢泉明神北III遺跡からは縄文時代前期（諸磕1式期）の、元総社小見内Ⅸからは縄文時代中期（加曾利E III期）の住居跡が検出されている。

弥生時代後期ではB区から1軒、H-21を確認した。床面直上からは樽式期の土器（1・2）が出土したが、炉跡は確認できなかった。覆土中位からは白玉（3）も出土した。該期以外の遺構の覆土層中からも弥生土器片が出土しており（H-2・6・10・11・13～15・20・21、W-2、D-9・12）、周辺に住居跡が点在する可能性もある。本遺跡では住居跡の検出はH-21が北限となり、他の住居跡と比べて極端に掘り込みが浅い。周辺遺跡では牛池川対岸の元総社小見内Ⅸ遺跡にて該期の住居跡が2軒検出されている。

3～4世紀代の遺構は確認できなかった。弥生時代に継ぎ本遺跡周辺では該期の遺構は非常に少なく、小見内Ⅸ遺跡にて4軒の住居跡が検出されているのみである。

5世紀代では住居跡がやや増加して4軒、H-11・12・18・20を確認した。H-12・18・20は5世紀後半の住居跡と推定した。遺構の重複と調査区外のため、いずれもカマドは確認できなかった。主軸方向は多少の差があるが、おおむね同方向である。H-18からは菅玉と白玉(2・3)を、H-20では掘り方から羽口接続部付近と思われる鍛冶津(5)が出土したが、鍛冶跡は確認していない。周辺遺跡でも該期の鍛冶跡は確認されていない。総社閑明神北II遺跡では同時期の住居跡が4軒確認されている。

6世紀初頭では2軒、H-15・22を検出した。H-22はほぼカマドのみの検出で、H-15は調査区外のためカマドを検出できなかった。主軸方向は2軒とも同一である。H-22の貯蔵穴はカマドの右側に確認した。周辺遺跡でも貯蔵穴はカマドの右側に確認されている。周辺では元総社中学校遺跡にて同時期の住居跡が2軒確認された。

6世紀後半の住居跡として2軒、H-13・14を検出した。2軒ともカマドを検出した。主軸方向はH-13がE-32°-N、H-14がE-13°-Nと、多少の差があるがほぼ同方向と言える。しかし、貯蔵穴の位置に違いがあり、H-13ではカマドの左側に、H-14では右側に確認した。小見内Ⅲ遺跡でも同時期に2軒、カマドの左側に貯蔵穴を持つ住居跡が確認されている。総社甲種荷塚大道西Ⅱ・Ⅲでも同時期の住居跡が各4軒検出されている。

7世紀前半の住居跡は確認できなかった。周辺遺跡にも該期の住居跡検出は非常に少ないが、小見内Ⅲ遺跡では24軒と、他の周辺遺跡に比べ集中しており特徴的である。

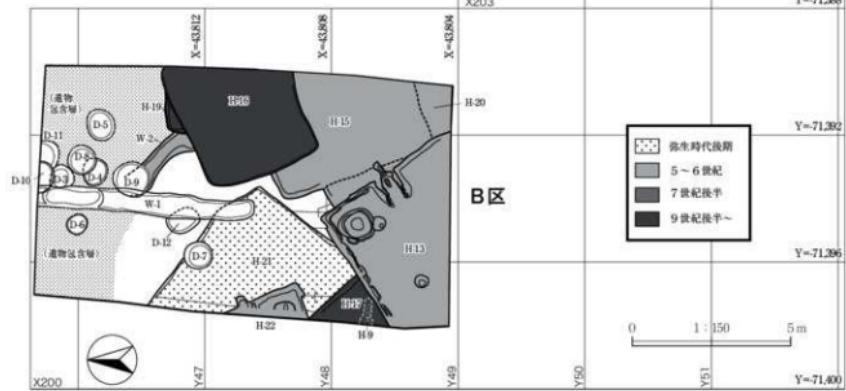


Fig.17 元総社北小学校 住居跡変遷図

7世紀後半では1軒、H-6を検出した。カマドの残りが非常によく、煙道部分も崩落していない。7世紀前半に引き続き周辺遺跡での検出例は少ないが、小見内Ⅲ遺跡のみ、前時期に引き続き42軒と集中している。同遺跡での傾向としては、調査区の東側が薄く、西側が濃い特徴がみられる。

8世紀代では本遺跡に遺構は確認できなかった。周辺では7世紀後半まで住居跡の検出例は少数だが8世紀になるとわかつに増加する。総社甲種荷塚大造西I～III、小見内Ⅲ・IV・VII～IXなどで確認でき、小見内Ⅲでは7世紀後半と比べるとやや減少するが31軒確認された。

9世紀代になると住居跡は増加し、H-1・8・9・19の4軒を確認した。カマドを確認できたのはH-9のみ。周辺遺跡でも8世紀代に挙げた遺跡にて住居跡が検出された。

10世紀前半から11世紀では8軒、H-2～5・7・10・16・17を検出した。カマドを確認できたのはH-3～5・7で、このうちH-3では右袖石を、H-7では両袖石と支脚を確認した。H-7のカマドは遺存状態が非常に良く、煙道部の天井も崩落していない。H-2からは灰釉陶器淨瓶かと思われる破片を検出した。またH-2の北に同時期の井戸（I-1）を確認した。H-16は北限にあり、他の住居と比べて掘り込みが浅い。

### 3. おわりに

本遺跡の集落変遷について概観する。弥生時代後期頃に集落を営み始めるが、古墳時代前期から中期になると一旦集落が途切れ、後期には再び増加傾向を見せる。飛鳥時代には再度途切れ、7世紀後半には1軒のみ確認した。周辺遺跡でも同様に検出数が少ないが、小見内Ⅲ遺跡では7世紀前半に24軒、7世紀後半に42軒の住居跡が確認され、突出した検出数が特徴である。9世紀前半まで空白期が続いた後、9世紀後半に再び増加に転じ、10世紀前半になると住居跡の軒数が急激に増加する。その数は10世紀後半から11世紀まで衰えず踏襲される。

各年代を通しての特徴としては、カマドはおむね東壁に設置すること。カマドの内壁がよく焼けていて硬いこと。貯蔵穴や柱穴の検出が少ない（貯蔵穴は確認したカマド9基の内3基、柱穴は22軒の内3軒の確認に留まる）こと。H-16・21を除いて掘り込みが深いこと（30～60cm）が挙げられる。

Tab. 4 周辺遺跡時期別住居跡軒数表

| 遺跡名         | 位置                   | 測量面積 (m <sup>2</sup> ) | 1世紀 | 2世紀 | 3世紀 | 4世紀 | 5世紀 | 6世紀 | 7世紀 | 8世紀 | 9世紀 | 10世紀 | 11世紀 |
|-------------|----------------------|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 元郷社北小学校     | X=200～209, Y=45～52   | 208                    | 1   | -   | -   | 4   | 4   | -   | 1   | -   | 4   | 6    | 2    |
| 元郷社中学校      | X=234～238, Y=48～54   | 130                    | -   | -   | -   | 1   | 2   | -   | -   | 1   | 2   | -    | 4    |
| 元郷社寺池川      | X=178～208, Y=80～101  | 4330                   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -    | -    |
| 元郷社北        | X=100～170, Y=5～86    | 26,700                 | -   | -   | -   | -   | 1   | -   | -   | 1   | 8   | 4    | -    |
| 越后平野南大造西    | X=252～272, Y=29～91   | 465                    | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 4   | -   | 3    | 7    |
| 越后平野南大造西II  | X=256～266, Y=47～56   | 420                    | -   | -   | -   | -   | -   | 4   | -   | 4   | 4   | 16   | 1    |
| 越后平野南大造西III | X=244～279, Y=39～94   | 1416                   | -   | -   | -   | -   | 4   | -   | -   | 6   | 8   | 2    | 5    |
| 越后平野南大造西IV  | X=278～285, Y=52～68   | 490                    | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -    | -    |
| 越村南大造西No.2  | X=244～246, Y=13～18   | 106                    | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 4   | 4   | -    | -    |
| 越村南京町神北     | X=245～251, Y=133～160 | 5,100                  | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 1    | -    |
| 越村南京町神北II   | X=266～280, Y=133～138 | 355                    | -   | -   | -   | 4   | -   | -   | -   | -   | 4   | 2    | -    |
| 越村南京町神北III  | X=272～278, Y=111～125 | 435                    | -   | -   | -   | -   | 5   | -   | -   | 3   | -   | 1    | 15   |
| 越村南京町神北IV   | X=240～248, Y=107～125 | 3,957                  | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -    | -    |
| 越村南京町神北V    | X=264～267, Y=136～137 | 293                    | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -    | -    |
| 元郷井小見内Ⅱ     | X=305～346, Y=70～110  | 6,091                  | 2   | 4   | -   | 1   | -   | 24  | 42  | 31  | 31  | 26   | 6    |
| 元郷井小見内Ⅲ     | X=86～149, Y=127～136  | 1,924                  | -   | -   | -   | -   | 1   | -   | 11  | 2   | 13  | 1    | -    |
| 元郷井小見内Ⅳ     | X=190～191, Y=93～95   | 28                     | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -    | -    |
| 元郷井小見内Ⅴ     | X=119～135, Y=108～120 | 1,034                  | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 1   | -   | 2   | 4    | 1    |
| 元郷井小見内Ⅵ     | X=65～102, Y=96～99    | 1,993                  | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 7   | 8   | 1   | -    | -    |
| 元郷井小見内Ⅶ     | X=108～136, Y=95～151  | 809                    | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 8   | 2   | 4   | -    | -    |
| 元郷井小見内Ⅷ     | X=78～110, Y=132～158  | 1,473                  | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 4   | -   | 13   | -    |
| 元郷井小見内Ⅸ     | X=80～127, Y=149～155  | 2,252                  | -   | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 2   | 4   | -    | -    |



調査区全景（上が北）



調査区全景（北東から）



H-1号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡全景（南西から）



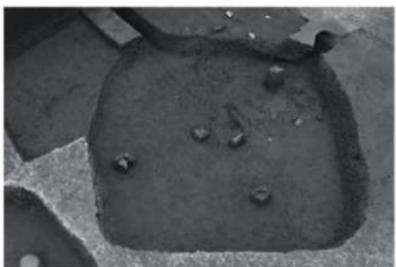
H-3号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡カマド全景（西から）



H-5号住居跡全景（南西から）



H-6号住居跡全景（西から）



H-6号住居跡カマド全景（西から）



H-7号住居跡全景（南西から）



H-7号住居跡カマド全景（北西から）



H-8号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡カマド全景（西から）



H-10号住居跡全景（北西から）



H-11号住居跡全景（南から）



H-12号住居跡全景（北東から）



H-13号住居跡全景（南西から）



H-13号住居跡カマド全景（南西から）



H-14号住居跡全景（西から）



H-14号住居跡カマド全景（西から）



H-15号住居跡全景（南西から）



H-16号住居跡全景（南西から）



H-17号住居跡全景（南西から）



H-18号住居跡全景（南から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-20号住居跡全景（北西から）



H-21号住居跡全景（北西から）



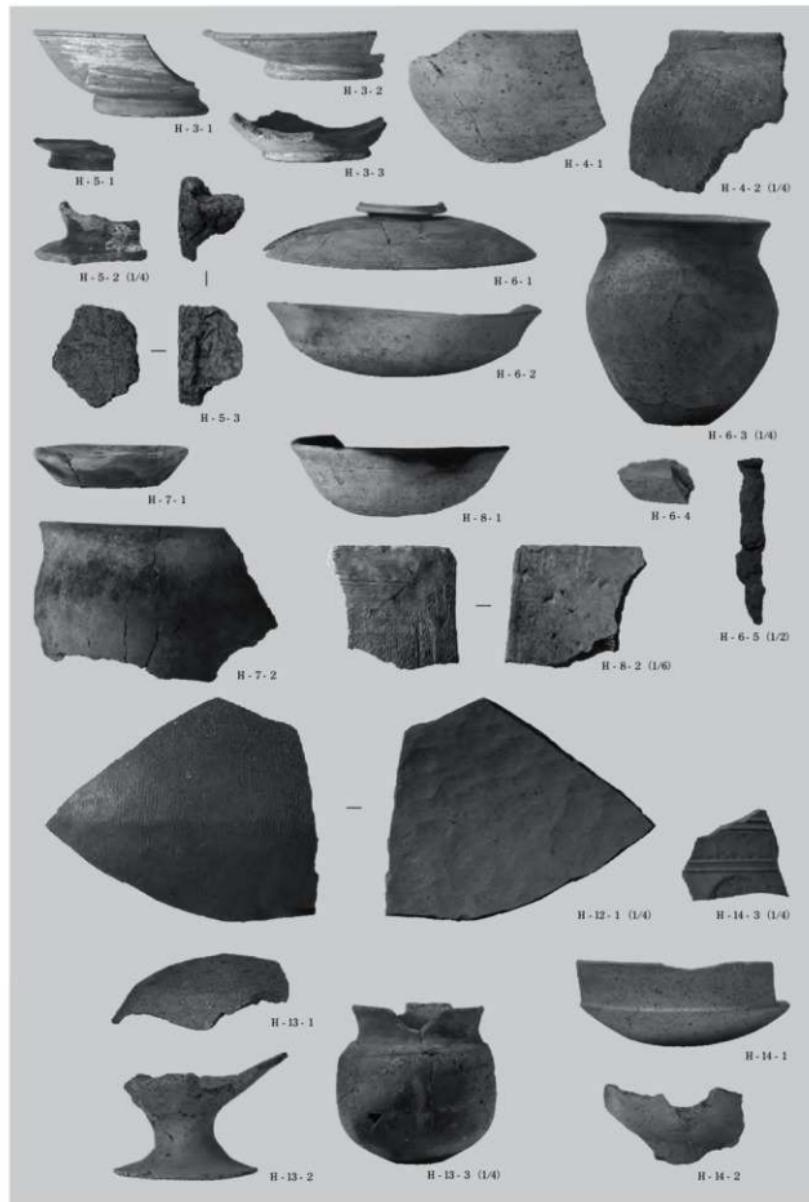
H-22号住居跡全景（南西から）

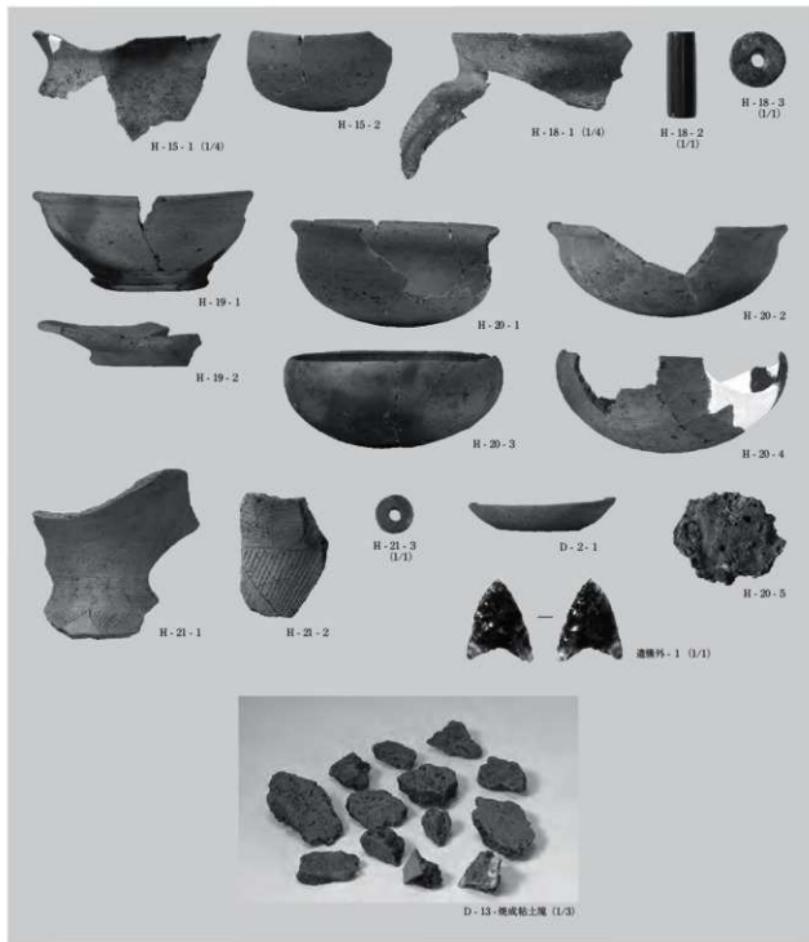


B区作業風景（北東から）



遺跡説明会の様子（北から）





## 報告書抄録

|         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| カタカナ    | モトソウジャキタショウガッコウイセキ              |
| 書名      | 元総社北小学校遺跡                       |
| 副書名     | 元総社北小学校プール改築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次      | -                               |
| シリーズ名   | -                               |
| シリーズ番号  | -                               |
| 編著者名    | 松村春樹                            |
| 編集機関    | 技研コンサル株式会社                      |
| 編集機関所在地 | 〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3    |
| 発行機関    | 前橋市教育委員会                        |
| 発行機関所在地 | 〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4     |
| 発行年月日   | 2021年1月29日                      |

| フリガナ      | フリガナ       | コード    |        | 位置        |           | 調査期間                      | 調査面積              | 調査原因                 |
|-----------|------------|--------|--------|-----------|-----------|---------------------------|-------------------|----------------------|
|           |            | 所在     | 地      | 市町村       | 遺跡番号      |                           |                   |                      |
| 元総社北小学校遺跡 | 前橋市総社町3149 | 102016 | 2 A260 | 36°23'32" | 139°2'14" | 20201001<br>~<br>20201202 | 208m <sup>2</sup> | 元総社北小学校<br>プール改築建築工事 |

| 所収遺跡名     | 種別              | 主な時代                       | 主な遺構   | 主な遺物                                      | 特記事項   |   |
|-----------|-----------------|----------------------------|--|---|--|---|
| 元総社北小学校遺跡 | 集落<br>交通<br>その他 | 弥生時代<br>古墳時代<br>平安時代<br>中世 | 住居跡<br>溝跡<br>道路状遺構<br>井戸<br>土坑<br>ピット<br>包含層 | 22軒<br>2条<br>1条<br>1基<br>12基<br>2基<br>1箇所 | 縄文土器、石器、<br>弥生土器、土師器、<br>須恵器、灰釉陶器、<br>綠釉陶器、鉄製品、<br>臼玉、管玉 | ・牛池川崖線に立地する、弥生時代後期、5~6世紀後半、7世紀後半、9~11世紀の住居跡。<br>・As-B軽石混土層が堆積する道路状遺構。 |

## 元総社北小学校遺跡

元総社北小学校プール改築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021年1月18日 印刷

2021年1月29日 発行

発行

前橋市教育委員会

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4

TEL 027-280-6511

編集  
印刷

技研コンサル株式会社  
朝日印刷工業株式会社







